

SUSTAINABILITY REPORT 2020

グッドホールディングスグループ
サステナビリティレポート



GOOD
HOLDINGS

An aerial, top-down view of a busy city intersection. The road is dark asphalt with white lane markings and crosswalks. Several cars of various colors (white, red, green, black) are visible, along with a white van and a red bus. Pedestrians are walking on the sidewalks. Buildings are visible in the background. The overall scene is a typical urban street scene.

世界を、きれいに

時代の先にある 環境ビジネスへ

1960年

2020年

「街が寝静まる深夜。バタンコをひたすら走らせ、眠い目をこすりつつ、家庭のごみを回収。たとえ大変でも、世の中のためになる仕事をできることがうれしかった。」

原点としての創業精神

「世の中のためになる仕事をめざす」。グッドホールディングスグループの事業の原点が、ここにあります。

戦後の物資が乏しい時代において、回収したごみから金属スクラップなどを選別しては、資源として活かす手段を模索しました。これが、今日の資源リサイクル事業へとつながっています。

グッドホールディングスグループは、創業者の「地域の役に立ちたい」という思いを受け継ぎ、時代の先を見すえた環境ビジネスを通じて、社会課題の解決に向けて着実に前進しています。



戦後間もない頃、「バタンコ」の愛称で親しまれたオート三輪を深夜の大阪の街に走らせて、家庭を1軒ずつ回っては、ごみを回収する仕事に従事しました。これが、グッドホールディングスにおけるごみ収集事業の原点となっています。

「捨てない社会」を築くという使命

社会とは、先人たちが苦闘の末に築き上げたものであるとともに、子孫に末永く引き継いでいくもの。いわば、大切な預かりものとして、現代を生きる私たちは社会においてさまざまな責任があります。そして、社会課題の解決を通じて、次の世代にバトンタッチしていく必要があります。

グッドホールディングスは、今から70年以上前のこと、戦後の混乱期において創業者が家庭や市場などから出たごみを回収したことが事業の原点です。

戦時中、満州の開拓移民の子どもとして中国大陸に渡った彼は、衣食住の不足で辛酸をなめた上に、命からがら帰国す

ることとなりました。それだけに物を大切にすることは人一倍強く、ごみを回収しながら「もったいない」と考えては、ごみの中からアルミや鉄などの有価金属を仕分けしたのです。

「ごみは資源であり、可能な限り活かすべき」という創業時の思いこそ、グッドホールディングスの事業の根幹にあります。創業精神を大切に守る一方、進取の精神を発揮しつつ、ごみ収集事業に加えて、リサイクル事業やリユース事業、バイオマス燃料事業などを立ち上げてきました。これからも私たちは、次代を見すえた環境ビジネスを通じて「捨てない社会」を追求し、地域と地球への貢献をめざしてまいります。

コーポレートメッセージ 捉える、応える、超えていく

contents

【経営の基盤】	【特集】	【事業ごとの取り組み】	【ESGの取り組み】
01 - 02 原点としての創業精神	09 - 10 暮らしの課題に応える	15 - 20 株式会社リヴァックス	32 - 36 コーポレート・ガバナンス
03 - 04 トップメッセージ	11 - 12 産業の課題に応える	21 - 24 株式会社リリーフ	37 - 40 環境における取り組み
05 - 06 経営理念と価値創造	13 財務情報・非財務情報	25 - 26 株式会社ダイキョウグリーン	41 - 45 従業員とともに
07 - 08 グッドホールディングスグループ概要	14 グッドホールディングスグループ2019年度 トピックス	27 - 28 株式会社大栄	46 - 53 地域社会とともに
		29 - 30 株式会社大協	54 ISO26000対照表、編集方針

トップメッセージ

各事業における現場の力を何よりの強みとして、 地域の社会と産業が抱える課題に真摯に 대응してまいります。

地域社会におけるお困りごとの 解決こそが事業の原点に

この度の新型コロナウイルス感染症に罹患された方々および関係者のみなさまに、心からお見舞い申し上げますとともに、医療従事者をはじめ感染防止にご尽力されているみなさまに深く感謝を申し上げます。

また、ステークホルダーのみなさまにおかれましては、日頃より当社グループの経営にご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

当社グループの原点は、創業者が太平洋戦争直後の荒廃した社会の中で、物を無駄にしないという考えのもと、家庭や事業所から出たごみの収集に従事したことにあります。

創業当時、仕事に対しては厳しかった一方、一緒に働く人や周囲の人への思いやりを欠かさず、人とのご縁を大切に地域社会との関係づくりに努めてきたことが、成長の礎となりました。そして、ごみの収集という暮らしや産業に欠かせない事業に真摯に取り組み、地域社会のお困りごとの解決に注力してきたことにより、グループ企業における多種多様な事業につながっています。

このように創業時から今日まで、従業員や取引先、行政機関、地域社会の方々など幅広いステークホルダーのみなさまと良好な関係を築くという「五方よし」の経営理念を貫いてきたことが、当社グループにおけるESG(環境、社会、コーポレート・ガバナンス)経営の根幹をなしています。

また、「事業における一番の基盤は人である」という経営の方針は、事業を展開する上での強みともなっています。各種サービスを展開する上での現場におけるオペレーション力をはじめ、何事もスピーディな対応、

グッドホールディングス株式会社
代表取締役社長

赤澤 健一

1985年より廃棄物収集から処理などの実務に携わる。
以降営業責任者、処理施設の建設における渉外責任者、事業会社社長を経て持株会社社長に就任する。事業会社社在中に遺品整理などのサービスが確立していない事業分野に参入し、現在の成長の礎を築く。

そして課題解決力などは、いずれも現場を重視する経営のもとで多岐にわたる人材を育成してきた成果です。こうした強み、特色を発揮していくことが、これからの時代における事業を通じた社会貢献につながると考えております。

既存の中核事業および新規 事業ともに堅調に推移しています

2019年度の経営につきましては、グループ5社ともに業績が堅調に推移しております。特に、中核2事業である産業廃棄物の収集運搬・中間処理事業、および一般廃棄物の収集事業は引き続き拡大中です。加えて、「おかたづけサービス」および「グリストラップ清掃」の新規2事業も順調に伸びております。いずれも社会のインフラを支える事業であるという使命感のもと、日々の凡事徹底とコンプライアンスを通じて、業務の適正な遂行に努めました。

第4四半期において突如、発生した新型コロナウイルスへの対処については、本年3月上旬の段階でBCP(事業継続計画)に基づき、私、赤澤健一を本部長とする対策本部を立ち上げました。これをもとに、従業員の感染防止を第一に、各事業の継続に注力してまいりました。

感染を避けるためにすべての活動が制約されるという厳しい状況にあって、従業員が一致団結して職務を全うしたことで、地域社会の衛生環境を守るという使命を果たしております。家庭ごみの回収に際しては、各所にて「ありがとう」の張り紙を拝見するなど、地域のみなさまからご声援を賜り、職

務を行う上で大変勇気づけられました。

今回の緊急事態に際して、BCPをただちに発動できた背景としては、1995(平成7)年の阪神・淡路大震災により京阪神地区が甚大な被害に遭った際、当社グループは全社を通じて地域の環境衛生を守ったことが挙げられます。この時の経験をはじめ、近年の豪雨災害などでの対応で培った知見を、この度の事態に活かすことができましたと思っています。

2030年の社会を見すえた長期 経営を推進していく考えです

2020年度以降の経営につきましては、中長期における事業を通じた社会貢献、そして事業の持続的成長をめざした取り組みを加速してまいります。また、10年後の2030年の社会を見すえた上で、当社グループが果たすべき役割を定め、そこから逆算して2020年度からの3か年の重要課題を設定していく考えです。これまで継続して人材基盤の構築に取り組んできたことから、各部門で業務の中核を担う人材が着実に育ってきました。今後はこうした人材の中から、2030年以降のグループ各社の経営を担う人材を育てていきたいと考えています。

また、時代の変化にともない新たなサービスを創出するためのイノベーション基盤も重要と考えます。当社グループの強みは、日々の業務における現場での改善です。これを積み重ねていくことで、たとえば、「おかたづけサービス」など社会課題に応えるサービスをうみだすきっかけとなっています。

今後、社内におけるイノベーション基盤を強化するとともに、必要に応じて社外のリソースも取り入れ、さまざまな組織との協業を通じて課題解決を図ることも検討してまいります。

いかなる事態に直面しても 事業を止めないという使命感

近年、企業においてはESG経営がますます重視される社会となっています。当社グループでは、日本国内において「環境経営」が唱えられた1990年代から、CSR(企業の社会的責任)に基づく事業運営を追求してきました。そして、地域社会との関係構築にも早くから取り組み、2011年からは「こども農業塾」を開催して、農業体験を通じた自然循環の大切さを学ぶ場を提供しております。

このような経緯を踏まえて、当社グループはESG経営の推進と、SDGs(持続可能な開発目標)への貢献を図っていく考えです。その根幹となるのは、いかなる事態に直面しても事業を止めることなく続け、地域社会の衛生環境を守るという使命感です。

SDGsの観点から、気候変動や感染症への対処が極めて重要な課題となっています。当社グループにおいても、それは例外ではなく、事業を遂行する上で大きな課題です。これに対して、長年にわたって培ってきた現場の力を発揮するとともに、ICT(情報通信技術)などの活用も踏まえて、一つひとつの課題に真摯に対処してまいります。

つきましては、引き続きステークホルダーのみなさまのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

経営理念と価値創造

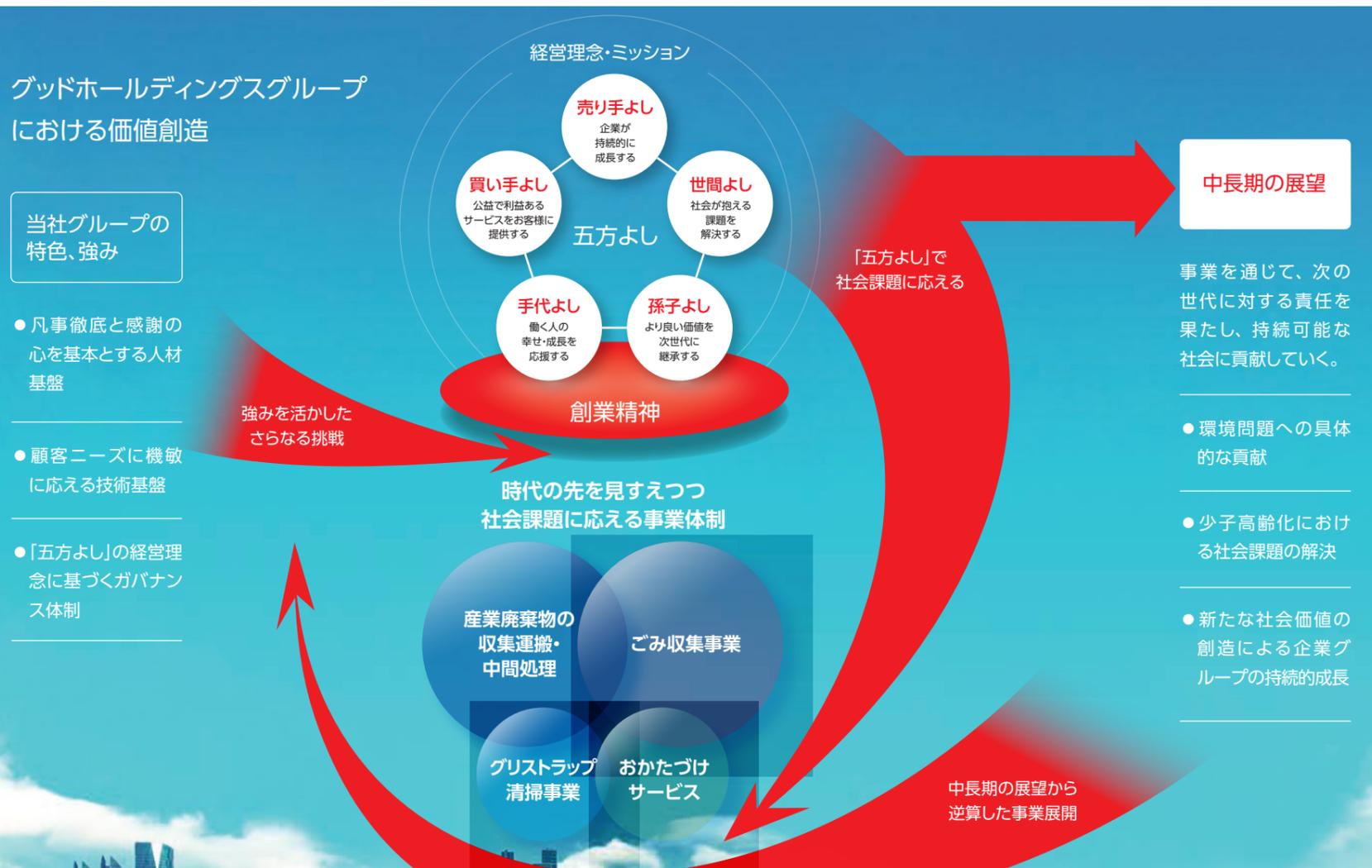
次の世代に明るい未来を引き継ぐために。
「五方よし」の経営理念のもと、社会課題の解決をめざしています。

経営理念を踏まえつつ、事業を通じた社会貢献をめざす。当社が掲げる経営理念の「五方よしは、創業者が、地域住民の方々をはじめ、取引先や行政機関などさまざまなステークホルダーとの関係を大切にしてきたことから生まれました。

たとえば、グループ企業の一つ「株式会社大栄」の社名は、「社会の人々

とのご縁を大事にしてこそ、会社は大きく栄える」という思いに由来しています。また、会社設立当時、資金が限られる中で、営業車を格安で提供していただいた自動車ディーラーとは長くお付き合いさせていただきなど、「商売は人と人の信頼関係が一番大切である」との創業者の思いが、「五方よし」の根底にあります。

そして今日、グッドホールディングスは、これまでに培ってきた「五方よし」の精神を発揮しつつ、SDGs(持続可能な開発目標)の実現に向けて注力しています。未来に引き継ぐ社会を築くために、私たちが今すべきことは何か。この使命感を、経営者をはじめとするすべての従業員が共有し、社会課題の解決をめざしてまいります。



時代の先を見すえて挑戦する心を育む
当社グループの「行動指針」

産業界における社会基盤として環境ビジネスを展開する当社グループでは、地域社会との信頼関係のもと、日々の業務に努めています。すべての従業員が凡事徹底を基本に、責任と誇りをもって仕事に取り組んでいます。

また、何事においても前向きな精神を発揮し、一人ひとりが挑戦する心を大切にすることで、時代の先を見すえたサービスの創出につながっています。

行動指針

1 責任とプライドを持って仕事に取り組む
お客様から報酬をもらっている自覚を持ち、常にお客様に満足いただける結果(成果)を残せるよう高いプライドを持ちながら仕事に対して真摯に取り組む

2 自主性と協調性のバランスをとる
「今、自分が何をすべきかを自ら考えて実践する」という自主性と、「みんなのために考え、協力して物事に取り組む」という協調性のバランスをとる

3 前向きにチャレンジする
現状に満足せず、前向きに新しいことにチャレンジし続け、「仕事を真剣に取り組むからこそ楽しい(面白い)」という姿勢で取り組む

4 どんな状況にも適応する(適者生存≠弱肉強食)
変化に敏感であり、過去の成功や失敗、慣習に囚われず、様々なあるいは困難な状況でも適応する努力をし続ける

5 適正な利益を確保する
われわれが責任を負う人々の期待に応えるため、且つ事業基盤の確立と将来の繁栄のためには適正な利益の確保が不可欠であることを認識する

SDGsにおける取り組み

当社グループでは、経営理念である「五方よし」を踏まえ、SDGs(持続可能な開発目標)の実現への貢献をめざしています。特に、環境問題に関する目標に向けては、事業を通じた貢献に積極的に取り組んでいるところです。また、コーポレート・ガバナンスをはじめ、人権・労働慣行、コミュニケーションの分野において、SDGsを踏まえた取り組みを強化しています。



グッドホールディングスの取り組み

コーポレート・ガバナンス

- 組織統治 ●法令順守
- 情報開示・説明責任



環境における取り組み

- マテリアルバランス ●活動の目標と実績
- 環境負荷低減の取り組み ●環境パフォーマンスデータ



従業員とともに

- 活動の目標と実績 ●労働安全衛生の取り組み
- 人事に関する取り組み ●安心して働ける環境づくり



地域社会とともに

- 活動の目標と実績 ●お客様とのコミュニケーション
- 消費者課題の取り組み ●苦情・事故



グッドホールディングスグループ概要

グッドホールディングスグループの歩み

- | | |
|---|--|
| 1953 創業者が廃棄物回収業を創業 | 2014 関東事業所を東京都足立区に開設(リリーフ)swell事業を開始(リヴァックス)バイオマスボイラーを新設(リヴァックス) |
| 1968 有限会社大栄衛生を設立 | 2016 リヴァックスホールディングスの社名をグッドホールディングスに変更埼玉県三郷市に関東事業所を開設(リリーフ、ダイキョウクリーン) |
| 1974 大栄サービス株式会社を設立(リヴァックス) | 2017 グループとして東京都千代田区に東京オフィスを開設 |
| 1976 有限会社大協工業所を設立 | 2018 愛知県名古屋市の名古屋事業所を開設(リリーフ)人材派遣・人材紹介事業(Gcareer)を開始(大協) |
| 1984 処理センターを兵庫県西宮市鳴尾浜に設置(リヴァックス) | |
| 1999 同業他社と協調体制(アライアンス事業)構築(リヴァックス) | |
| 2006 産業廃棄物の破碎施設をリニューアル(リヴァックス)大協工業所を株式会社に改組および大協に商号変更 | |
| 2007 有機性産業廃棄物の乾燥処理施設が完成(リヴァックス)同時にバイオマス燃料化事業を開始 | |
| 2008 廃棄飲料系商品のリサイクル事業のため、リバース・マネジメントセンター完成(リヴァックス) | |
| 2009 大栄サービスの社名をリヴァックスに変更 | |
| 2010 グリストラップ清掃事業を開始(ダイキョウクリーン) | |
| 2011 おかたづけサービス事業を開始(リリーフ) | |
| 2013 海外リユース事業を開始(リリーフ) | |



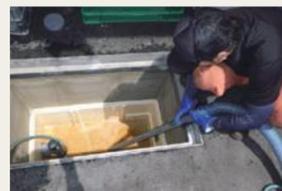
2006 破碎施設リニューアル



2007 バイオマス燃料化事業開始



2008 リバース・マネジメントセンター完成



2010 グリストラップ清掃事業開始



2011 おかたづけサービス事業開始



2013 海外リユース事業開始



2014 swell事業開始



2014 バイオマスボイラー新設

株式会社 リヴァックス

産業廃棄物の収集運搬・中間処理
各種施設の清掃・管理

所在地:兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
代表者名:代表取締役社長 山本英治
資本金:81百万円
従業員数:54名
売上高:1,475百万円

【事業内容】
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬
産業廃棄物の中間処理(破碎・乾燥)
飲料系食品のリサイクル
排水処理施設などの清掃・管理

株式会社 リリーフ

おかたづけサービス
海外リユースサービス

所在地:兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代表者名:代表取締役社長 赤澤健一
資本金:50百万円
従業員数:28名
売上高:382百万円

【事業内容】
おかたづけサービス
(遺品整理、生前整理、残置物撤去)
海外リユースサービス

株式会社
ダイキョウクリーン

グリストラップ清掃

所在地:兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
代表者名:代表取締役社長 津田政房
資本金:80百万円
従業員数:33名
売上高:403百万円

【事業内容】
グリストラップや排水管を含む
水回りの衛生維持管理サービス

株式会社 大栄

西宮市のごみ収集事業

所在地:兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代表者名:代表取締役社長 木村裕之
資本金:10百万円
従業員数:68名
売上高:932百万円

【事業内容】
一般廃棄物の収集運搬(西宮市)
産業廃棄物の収集運搬

株式会社 大協

伊丹市のごみ収集事業
人材派遣事業

所在地:兵庫県伊丹市北河原5丁目3番31号
代表者名:代表取締役社長 森下和尚
資本金:6百万円
従業員数:58名
売上高:535百万円

【事業内容】
一般廃棄物の収集運搬(伊丹市)
産業廃棄物の収集運搬
人材派遣・人材紹介

グッドホールディングス
株式会社

所在地:兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
代表者名:代表取締役社長 赤澤健一
資本金:92百万円
従業員数:12名

【事業内容】
グループ財務・経理・人事・労務・
広報・情報システム・経営支援および
総合戦略の策定

連結売上高^{※1} **3,707**百万円 グループ従業員数^{※2} **253**名

※1 単位未満切り捨て(特に断りのない場合、以降も同様) ※2 従業員数は常用雇用者(社会保険を負担している者・従業員兼務役員除く)の数

特集 暮らしと産業の課題に応える現場の力

[暮らしの課題に応える]

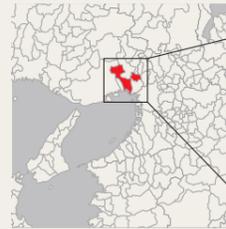
ごみ収集事業を起点に、企業グループを挙げて、 社会課題の解決を追求しています。

当社グループの祖業であるごみ収集事業。これを原点にして、地域の暮らしにおける課題を一つひとつ解決していく中で、今日までにさまざまな事業が生まれています。これからも、従業員一人ひとりが地域と真摯に向き合い、お役立ちをめざしてまいります。

ごみ収集事業



グループ会社の株式会社大栄が兵庫県西宮市にて、株式会社大協が伊丹市にて、半世紀以上にわたって一般廃棄物および産業廃棄物の収集運搬を手がけています。地域の実情を知り尽くした上で、時代ごとの社会課題に応じています。



兵庫県の南部、いわゆる阪神間の西宮市および伊丹市で、ごみ収集事業を行っています。地域住民の方々や地方自治体の方々や連携して、住みよい街づくりに努めています。



TOPICS

女性による ごみ収集運搬チーム

ごみ収集事業のイメージ向上の一環として、2017年から始まった女性スタッフによるごみの収集運搬。「さくらチーム」の名称で、西宮市内を巡回しています。スタッフの元気な挨拶と丁寧な仕事が、地域住民の方々に大変好評です。これからも、地域を明るくするサービスを心がけてまいります。



株式会社大栄では、ごみ収集事業を起点に、地域社会との密接な結びつきのもと、お客様のお困りごとをお聞きして、その解決に取り組んでいます。

□□ P.27

株式会社大栄
営業
梅田 雄太



事業系ごみに関するご相談を承っているほか、収集や処理に関する見積り業務などを担当しています。常にお客様の立場で考え、お声を気軽にかけただけの営業を心がけています。当社グループの理念である「五方よし」を大切に、すべてのお客様から「頼んでよかった」とおっしゃっていただける仕事をめざしています。

ごみの収集時には、作業の安全第一はもちろんのこと、地域のみなさまへの挨拶の励行などサービスの品質向上に常に取り組んでいます。

□□ P.27

株式会社大栄
業務
寺崎 佳奈美

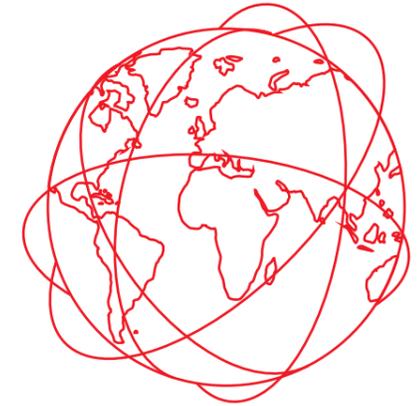


女性スタッフで業務を行う「さくらチーム」の一員です。運転助手として家庭ごみの収集を手がけています。作業の際は地域の方々へのお声がけを大切にしているほか、ごみステーションがきれいになるように収集作業に気をつけています。日々の仕事を通じて、西宮市がさらに住みよい街となるように、これからもがんばっていききたいと思っています。

ごみ収集事業から生まれた新たな成長事業

ごみの収集を行う中で、地域社会の方々から遺品整理や生前整理、また地方自治体から孤独死された方の住まいの片付けの依頼など、幅広いご要望に対応してきました。そして誕生したのが「おかたづけ事業」です。これが当社グループの成長事業として発展しつつあります。

加えて、「おかたづけ事業」を通じて引き取った不用品を東南アジアなどに輸出し、「Used in Japan」の商品として販売する「海外リユース事業」もまた新たな事業として成長中です。



おかたづけ事業



遺品整理および生前整理のサービスを提供するおかたづけ事業。「日本における新たなおかたづけ文化」をつくるという抱負のもと、サービスの明瞭化に努めています。

□□ P.21

株式会社リリーフ
事務
竹内 桐子



経理や総務など事務全般の業務を幅広く担当しています。仕事で大切にしているのは、業務でかかわるすべての人に対する気配りです。また、最初から「できない」と言うのではなく、「どうしたらできるか」を考えるように努めています。職場の方々から「一緒に仕事できてよかった」と言っていたいただけるような存在になりたいと思っています。

海外リユース事業



「おかたづけ事業」で回収したご家庭の不用品を海外に輸出しています。品質の高い「Used in Japan」の商品が現地で人気です。

□□ P.21

株式会社リリーフ
営業
今村 智光



「おかたづけ事業」で回収した家具や日用品の輸出業務を行っています。日々の業務では、優先順位を考えながら、スピーディな対応を心がけています。また、お客様や相手の気持ちに寄り添った仕事を大切にしています。現在、新型コロナウイルスで海外出張はできませんが、状況が改善したら現地に飛んでいきたいと思っています。

特集 暮らしと産業の課題に応える現場の力

[産業の課題に応える]

時代ごとにお客様の声を大切にしながら、
新たな価値を創出し続けています。

産業廃棄物の収集運搬を手がける中で、事業者様からさまざまなご要望をいただき、それに一つずつ応えることが新たなビジネスの起点となっています。何事もお客様の立場で考えて行動する姿勢を大切に、これからも産業の課題に応えてまいります。

産業廃棄物、特別管理産業廃棄物事業



産業廃棄物の収集運搬を着実に行う一方、事業者様との連携を通じて、ごみの減量化に積極的に取り組んでいます。

□ P.15

産業廃棄物の収集運搬を行っています。コンテナ車や吸引車、ウイング車などあらゆる車両を駆使して、食品工場などから排出される汚泥や食品残さの運搬が主な仕事です。仕事では安全運転が第一なのはもちろんのこと、元気な声での挨拶を大切にしています。環境保全にかかわる仕事を通じて、子どもや孫の世代によりよい社会を残したいです。

株式会社リヴァックス 業務 大里 真也

TOPICS

ビジネスモデルに高い評価

「第3回ドリンクジャパン展示会」にて開催された「International BEVARAGE Awards at Drink JAPAN」において、株式会社リヴァックスが手がける廃棄飲料リサイクルの事業が「ベストニュービジネス賞」を受賞するなど、産業廃棄物の処理に関する取り組みが高く評価されています。

産業廃棄物の中間処理事業



独自の処理フローを通じて、飲料系廃棄商品に関しては、容器と内容物の100%リサイクルを実現するなど、環境負荷の低減に貢献しています。

□ P.15

乾燥処理プラントの操作や保守などを手がけています。必要に応じて、機器の修繕や製作を行うこともあります。毎日大量の処理を行うため、安全衛生管理を徹底しつつ、安定稼働に向けた調整に努めています。今後、プラントを知り尽くすことで、いかなる時もプラントを止めることなく稼働させ、産業廃棄物の適正処理に貢献してまいります。

株式会社リヴァックス 業務 増山 雄大

TOPICS

阪神最大級の処理能力

有機性産業廃棄物のリサイクルプラントは、1日あたりの処理量が90.9m³と阪神最大級の処理能力を誇っています。また、都市型施設として、廃棄物の移動距離が少なく済むメリットがあります。加えて、徹底した臭気対策を講じるなど、周辺環境への負荷低減に努めています。

産業廃棄物の収集運搬事業から生まれた新たな成長事業

当社グループでは、一般廃棄物に加えて産業廃棄物の収集運搬事業に早くから取り組むとともに、お客様の課題に応えるという方針のもと、関連する業務の開拓に努めてきました。

その一つが、株式会社リヴァックスのswell(スエル)課による工場の排水処理施設などの清掃事業です。国内最大級の強力吸引車などを用いて、設備の機能維持という課題にお応えしています。

一方、飲食業界における厨房の環境保全ニーズに応えるため、株式会社ダイキョウクリーンでは、グリストラップの清掃事業を展開中です。品質の高いサービスの提供を通じて、事業を拡大しています。

排水処理施設などの清掃、管理事業



「産業廃棄物の処理だけでなく、現場の清掃も手がけてほしい」という事業所様のご要望に応じて誕生した事業です。

□ P.17

超強力吸引車や高圧洗浄車を用いて、お客様の工場内の水処理施設内にあるピットや配管の清掃を行っています。高低差が数十メートルという現場での作業などを行うことから、作業員の安全第一を心がけています。現在、現場監督として勉強の毎日です。今後、仲間とともに切磋琢磨しながら、業務の拡大に向けてがんばってまいります。

株式会社リヴァックス 業務 三宅 幸一

グリストラップの清掃事業



飲食店の厨房における油水分離の設備を清掃する事業です。店舗の衛生管理に役立つとともに、周辺地域の環境保全に貢献しています。

□ P.25

グリストラップの清掃や配管の洗浄などの業務に携わっているほか、車両整備も担当しています。お客様あつての仕事と心得、笑顔での対応を大切にしています。また、一つひとつの作業に集中することによる品質の高いサービスが誇りです。尊敬する先輩方と一緒に仕事をする中で、自らの成長を実感できることにやりがいを感じています。

株式会社ダイキョウクリーン 業務 和田 輝彦

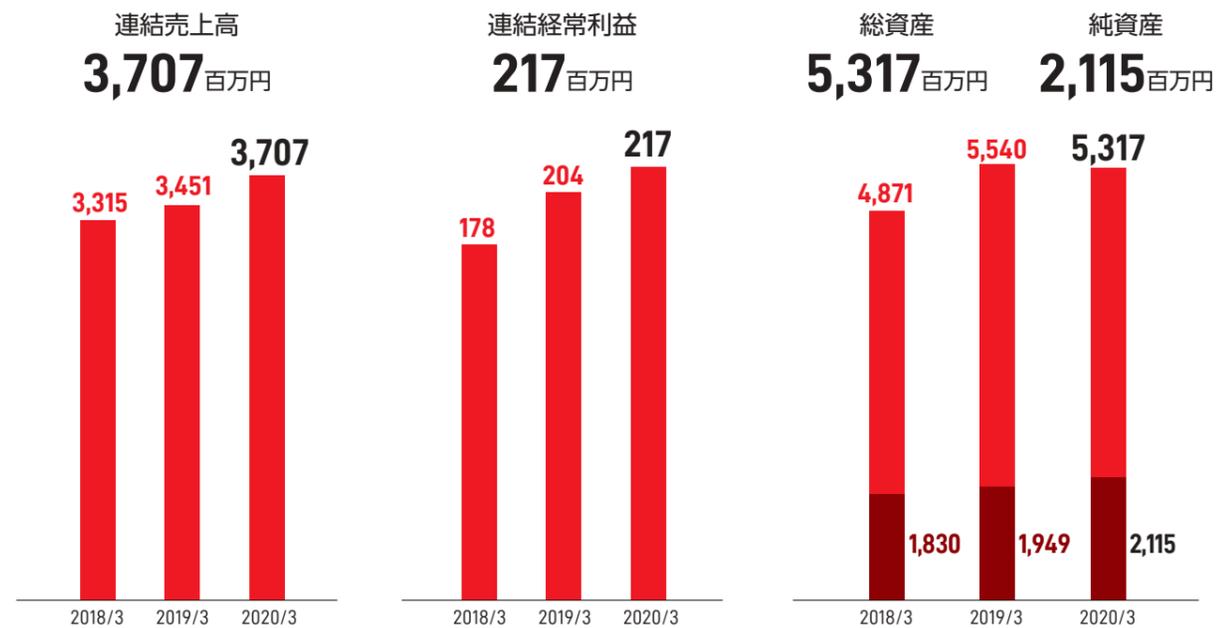
TOPICS

年間2万件以上の作業実績

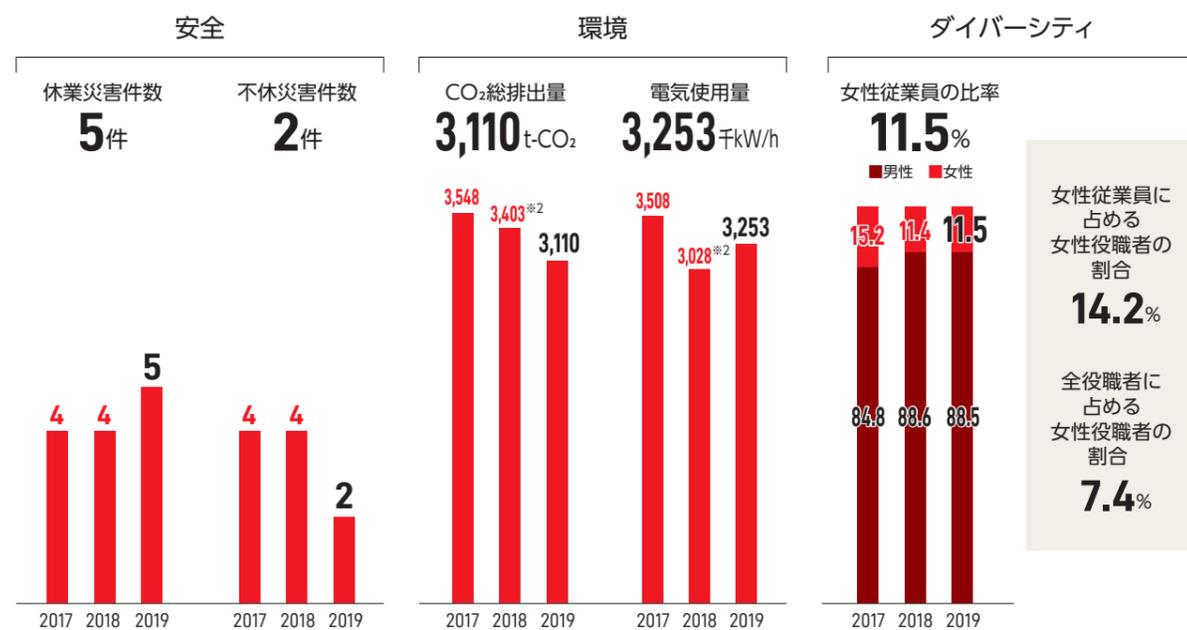
現在、関西および関東を中心に全国各地の飲食店において、年間2万件以上のグリストラップの清掃や配管の洗浄を行っています。件数の多さとともに、サービス品質の高さも誇り。クレームゼロをモットーに、スタッフが丸となって作業に奮闘中です。

財務情報・非財務情報

財務情報



非財務情報



*2 2018年度の値に誤りがありました。正しい数値を掲載しております。

グッドホールディングスグループ 2019年度 トピックス

第23回環境コミュニケーション大賞「優良賞」受賞



当社グループが発行しました「グッドホールディングスグループ サステナビリティレポート2019」が、第23回環境コミュニケーション大賞「優良賞」(主催:環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム)の環境報告書部門において、「優良賞」を受賞いたしました。

セーリングチーム世界選手権へ出場

2019年10月8日~12日、ブラジル・サンパウロにて、スナイプ級という種類のヨットにおいて、2年に一度世界チャンピオンを決める大会「2019 Snipe Class World Championship Regattas」が開催され、2018年の全日本選手権で8位入賞した森谷(リヴァックス)、山本(大栄)のコンビが日本代表チームの一員として出場しました。



リリーフ「遺品整理のプロ」のテレビCMが放映

遺品整理サービスを行う株式会社リリーフが、2020年1月6日より初のCM放映を開始いたしました。遺品整理のよくあるお悩みとして、「スピード編」と「リユース編」を全国に向けて放映しております。

伊丹市環境美化推進協議会より表彰

株式会社大協が、伊丹市環境美化推進協議会より表彰を受けました。伊丹市の環境保全と環境美化が目的の活動として、事業所周辺および市内清掃や伊丹市の環境美化活動への取り組み、伊丹市内の小学校にサツマイモの苗を寄贈するなど、次世代を担う子どもたちの環境教育や食育にも寄与していると評価を受け、今回の表彰に至りました。

メディア出演・掲載実績

■株式会社リリーフ

- ・CM放映「遺品整理のプロ」各局テレビ局
- ・「リサイクル通信」2020年2月25日号 リサイクル通信
- ・「コープステーション」2019年11月号 生活協同組合コープこうべ
- ・「循環とくらし」第8号 一般社団法人 廃棄物資源循環学会
- ・「お甲いの現場人 ルポ 葬儀とその周辺を見に行く」(朝山実氏取材協力) 中央公論新社

■株式会社大栄

- ・「ミント」株式会社毎日放送 (MBSテレビ)

過去の受賞・顕彰歴

- 2018年度「第22回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 優良賞
- 2017年度「第21回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 優良賞
- 2016年度「第20回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 優良賞
「環境 人づくり企業大賞2016」大企業区分 優秀賞
「シニアビジネスコンテスト2016」最優秀ビジネスプラン賞
「兵庫県体育協会表彰式」兵庫県スポーツ優秀選手賞(国際大会)セーリングチーム
- 2015年度「第19回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 優良賞
「平成27年度青少年の体験活動推進企業表彰」審査委員会奨励賞
- 2014年度「環境 人づくり企業大賞2014」奨励賞
「第18回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 優良賞
- 2013年度「第17回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 奨励賞
- 2012年度「西宮商工会議所創立70周年記念:環境経営特別賞」
「CSR2プロジェクト」コンプライアンス部門
環境省産業廃棄物課長賞
「第16回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 奨励賞
- 2011年度「西宮市優良事業所顕彰~NISHINOMIYA APPLIED PRIZE~」
「第15回環境報告書・サステナビリティ報告書賞」
サステナビリティ報告書賞部門 優良賞



株式会社リヴァックス

代表取締役社長

山本 英治

お客様の声の一つひとつ応えて、あらゆる産業廃棄物の資源循環化に挑んでいます。

【事業を築いてきた思い】

時代に先駆けて

リサイクル事業への転換に挑戦



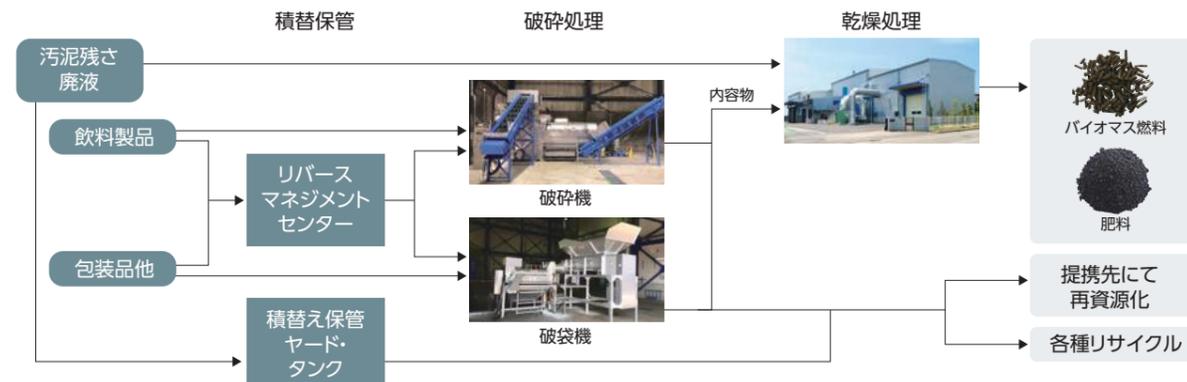
当社は、1974(昭和49)年に大栄サービス株式会社として設立以来、約半世紀にわたって産業廃棄物の収集運搬、中間処理の事業に取り組んでまいりました。設立当初、日本は公害問題が深刻化しており、事業を通じた環境負荷の低減に努めたことが、事業の原点となっております。1990年代以降は、循環社会に対する意識が

高まる中、廃棄物の資源循環化にいち早く取り組みました。リサイクルという言葉がまだ目新しかった時代において、資源循環化に軸足を置いた事業への転換は当社にとって大きな決断でありましたが、地域社会との信頼関係を築く上で不可欠の取り組みという覚悟のもと、総合リサイクル事業への転換を一步ずつ進めてきました。

この間、さまざまな業界のお客様のご要望に応じて、適正で価値ある処理を、適正な価格で提供し続けることで、事業の幅を広げてきました。そして、日々の業務を通じて技術やノウハウを蓄積していくとともに、お客様や取引先、行政機関などの幅広いネットワークを構築して現在に至っています。

一方、いかなる事態に際してもお客様にサービスを安定して提供していくため、社内の管理体制の構築に努めてきました。ISO(国際標準化機構)規格やコーポレート・ガバナンスの考えに基づいた体制の強化を進めるとともに、CSRレポート(現、サステナビリティレポート)などを通じて情報公開にも積極的に取り組んでまいりました。法令順守と透明性を重視した経営を通じて、すべてのステークホルダーの方々の信頼に応えていく。そして、現状に甘んじることなく、より環境にやさしいリサイクルフローを時代に先駆けて創出していく。これこそが当社グループの経営理念である「五方よし」の実践であると考えております。

リヴァックスのリサイクルシステム



事業を通じて
取り組むSDGs



【事業の概要と特色】

難処理廃棄物の資源化および工場の環境インフラの機能維持に取り組んでいます

現在、当社は阪神間に処理センターを保有し、お客様の利便性と環境対策に配慮した事業環境を整えています。当社グループの中で唯一、処理プラントを持つ強みを発揮しつつ、有機性廃棄物のバイオマス資源化事業をはじめ、食品リサイクル事業、アライアンスネットワーク事業を

展開しています。また近年、産業廃棄物の収集運搬から派生した工場インフラの清掃サービス事業として「swell(スエル)事業」も展開しています。



有機性廃棄物の バイオマス資源化事業

事業所から排出される活性汚泥や動植物性残さ、飲料液などの有機性廃棄物を混合で乾燥処理し、大幅な減量化を行うとともに、バイオマス資源として100%リサイクルを実現しています。処理完了後の乾燥汚泥は、燃料や肥料、炭化物など多岐にわたるリサイクル用途で活用されています。

プラントの稼働においては、バイオマスボイラーの導入や高効率な運転を通じて、温室効果ガスの排出削減に努めています。また、各種の脱臭装置による万全の臭気対策を講じることで、環境負荷低減に努めています。



バイオマスボイラー



リバース・マネジメントセンター(RMC) 廃棄飲料専用保管施設



食品リサイクル事業

期限切れや製造ロスなどによって生じた飲料製品や食品廃棄物のリサイクルを行っています。廃棄物の保管や開梱、分別を行う専用倉庫をはじめ、食品容器包装専用破砕機、複数の食品リサイクル施設を最適に組み合わせることが出来る独自のリサイクルフローを構築しています。これにより、飲料製品から固形・泥状食品まで幅広い食品廃棄物について、焼却処分よりも低コストでのリサイクルを可能にしています。



クッカー(廃棄物投入後、約4時間でバイオマス燃料に加工)



飲料用破砕機

[事業を通じた社会貢献]

リサイクルの質の向上に向けた取り組みをさらに加速

現在、リサイクルを行っている当社ですが、究極の理想はリサイクルを必要としない社会にあります。しかしながらその実現は困難を極めるものであり、その過程ではリサイクルの質を高めることが求められるのではないのでしょうか。私たちは「創意工夫で廃棄物の可能性を追求する」を

合言葉に、お客様との信頼関係のもとで、ご要望に一つずつ応えていくことが当社の使命と考えます。今後も時代ごとの社会の課題に真摯に応えていくことで、さらなる貢献をめざしていきたくと考えています。



工場インフラの清掃サービス事業 (swell事業)

排水処理施設など、工場内施設に特化した清掃サービスを提供しています。国内最大級の超強力吸引車などの特殊車両を保有しており、高揚程など特殊な高度作業を請け負うことが可能です。また、「どんな方法で清

掃したらよいか分からない」「どんな業者に依頼すればよいか分からない」といったお悩みに対し、多数の清掃実績を活かし、現場に応じた最適な作業方法を提案することができます。



吸引車



作業現場



アライアンスネットワーク事業

産業廃棄物の処理委託では、リスク分散やコスト削減などさまざまなニーズが生じます。当社では、阪神エリアに積替保管施設を有する強みを活かしながら、内容や排出状況に合わせて、豊富なネットワーク

の中から選定した最適な収集運搬方法や処理方法の提案が可能です。また、単なる処理の提案だけでなく、排出事業者様の委託業務をトータルでサポートしております。

環境負荷低減の取り組み

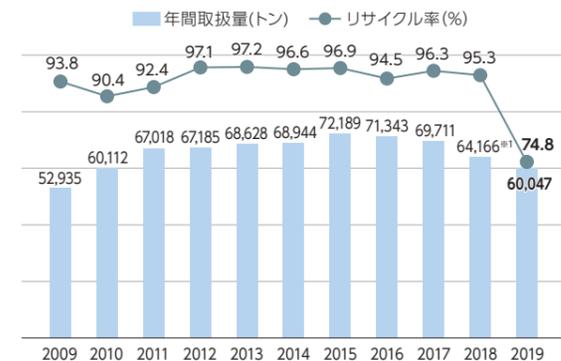
産業廃棄物のリサイクル率

より質の高いリサイクルをめざしています

2019年度より、リサイクル率の算出方法を変更し、より質の高いリサイクルでのご提案件数の増加をめざすために、再生利用・燃料化のデータのみをリサイクルとしてカウントし、昨年度までリサイクル扱いとしていたサーマル焼却の廃棄物についてはリサイクルカウントから除外いたしました。これにより2019年度は例年に比べてリサイクル率が減少しておりますが、物資資源の有効活用、産業資源である埋め立て処分地の延命、産業廃棄物のリサイクルに取り組むお客様のご要望にお応えするためにも今後もより質の高いリサイクルをめざしてまいります。

※リサイクル率は年間取扱量のうちリサイクル処理への仕向量の占める割合を表します。

リヴァックスの産業廃棄物年間取扱い量とリサイクル率



※1 前年度数値に誤りがありました。正しい数値を掲載しております。

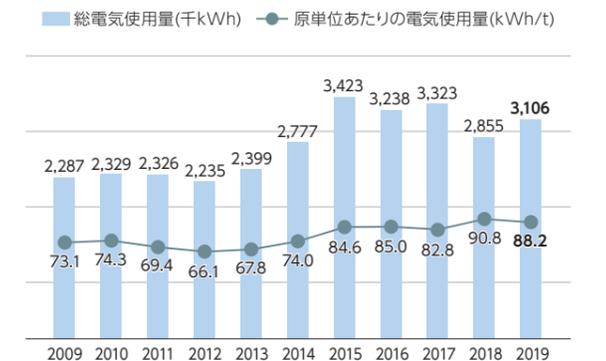
リヴァックスの対応可能な廃棄物処理	
汚泥・残さ・廃液の乾燥処理	阪神間最大級の リサイクルプラント ▶ 100t/日 安定した稼働実績 ▶ 36,000t/年
食品などの容器包装の破碎処理	1日の処理量 ▶ 43t/日 (内容量含む) 多種類の許可 ▶ 3種 ●廃プラスチック類 ●金属くず ●ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず
廃棄飲料の処理	飲料処理実績 日本最大クラス ▶ 8,000t/年 保有容量 ▶ 585m³ 食品リサイクル法に対応

処理センターのエネルギー使用量

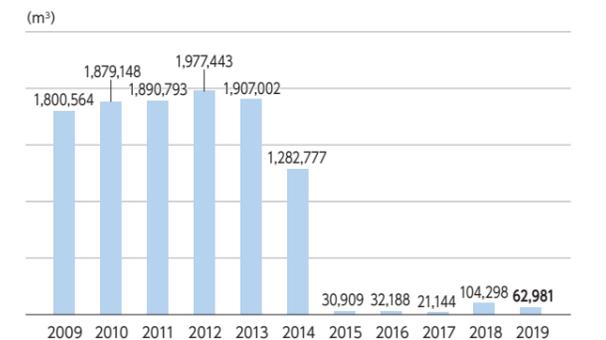
省エネルギー対策に努めています

リヴァックスの処理センター(破碎・乾燥施設)では、電気・都市ガスのエネルギーを使用しています。2019年度の電気使用量は3,105,729kWhでした。2018年度は火災事故によるプラント停止の影響で減少しておりました。2019年度は早期復旧により通年使用いたしました。2017年度に比べて減少する結果となりました。

処理センターの電気使用量



処理センターの都市ガス使用量



悪臭防止対策

各種対策で、規制値を厳守しています

破碎・積替保管棟には、活性炭式の脱臭装置を4箇所設置、汚泥や動物性残さの保管ヤードにはシャッターを取り付け、廃棄物の搬出入以外は閉鎖しています。乾燥施設から発生する高濃度臭気はバイオマスボイラーの燃焼室内で燃焼脱臭を行い、低濃度臭気には臭気を薬剤で中和脱臭させる薬液洗浄装置を設置しています。西宮市との環境保全協定に基づく臭気測定の結果は、2019年度もすべて規制値内でした。(P20参照)

水質汚濁防止対策

定期的に水質を分析、適正管理しています

廃棄物処理工程において発生する排水は、全量を排水処理施設で処理した後、下水道へ放流しています。連続監視式のpH計を設置し、排水処理施設の水質を定期的に分析しています。法律より厳しい自主基準値を設定し、月1回の管轄行政による排水水質検査に合わせた自主検査を実施するなど、未然防止に努めています。(P20参照)

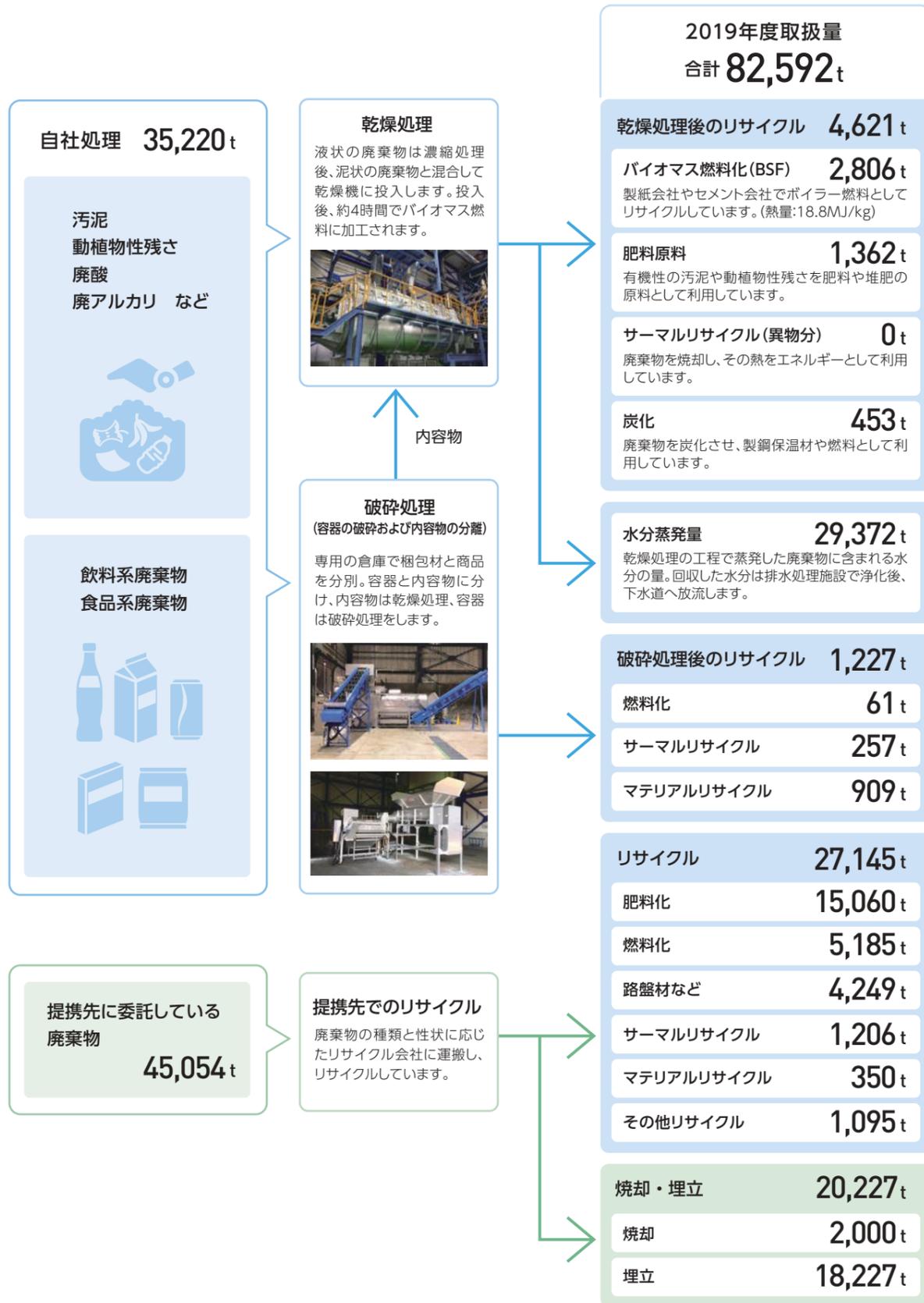
廃棄物の漏洩・流出防止対策

漏洩・流出防止を徹底しています

リバース・マネジメントセンターでは、容器入り廃棄飲料の荷崩れや開梱作業などで飲料がこぼれた場合でも漏洩しないよう、倉庫外周に側溝および8mの溜め枡を設けています。さらに、含水率の高い廃棄物を収集運搬する際には漏洩防止のためゴムパッキン付き水密コンテナを使用しています。

産業廃棄物処理フロー

2019年度にリヴァックスが取り扱った産業廃棄物の処理の流れは次のとおりです。
 廃棄物の品目や性状に合わせて適切に処理しています。



環境測定結果

臭気測定結果

悪臭物質名	規制基準	単位	東側	西側	北側	南側
アンモニア	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
メチルメルカプタン	0.002	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化水素	0.02	ppm	<0.0005	0.0006	<0.0005	<0.0005
硫化メチル	0.01	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリメチルアミン	0.005	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
アセトアルデヒド	0.05	ppm	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
プロピオンアルデヒド	0.05	ppm	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
ノルマルブチルアルデヒド	0.009	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソブチルアルデヒド	0.02	ppm	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルパレルアルデヒド	0.009	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソパレルアルデヒド	0.003	ppm	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
イソブタノール	0.9	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
酢酸エチル	3	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
メチルイソブチルケトン	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
トルエン	10	ppm	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
スチレン	0.4	ppm	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
プロピオン酸	0.03	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸	0.001	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
臭気濃度(敷地境界)	30	—	<10	<10	<10	<10

大気汚染物質測定結果 (2019年10月28日、2020年3月10日実施)

測定項目	規制基準	単位	1回目	2回目
窒素酸化物(NOx)	排出基準	350	ppm	80
	時間あたり排出量	0.53	mN	0.42
	年間排出量	8.5	t	6.8
硫化酸化物(SOx)	排出基準	—	ppm	<1
	K値規制	1.3	mN	<0.02
	総量規制	0.38	mN	<0.02
ばいじん	排出基準	0.2	g/mN	<0.001

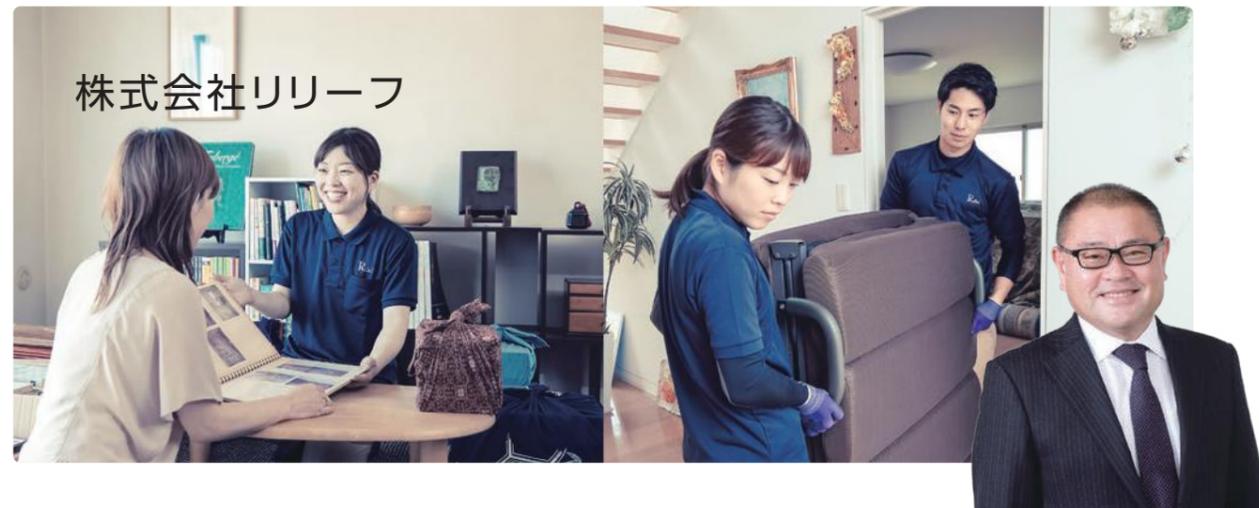
重金属などの水質検査結果 (2019年5月9日実施)

測定項目	単位	規制基準	結果
水温	℃	45以下	20.2
pH	—	5.0~9.0	7.1
カドミウム	mg/l	0.03以下	<0.003
シアン	mg/l	0.3以下	<0.1
鉛	mg/l	0.1以下	<0.01
六価クロム	mg/l	0.1以下	<0.02
ひ素	mg/l	0.05以下	<0.01
総水銀	mg/l	0.005以下	<0.0005
総クロム	mg/l	2以下	<0.02
銅	mg/l	3以下	<0.1
亜鉛	mg/l	2以下	0.02
溶解性鉄	mg/l	10以下	<1
溶解性マンガン	mg/l	10以下	<0.02

水質測定結果 (8月はメンテナンスのため放流水がございませんでした。10月は2回測定しております。)

測定項目	規制基準	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水温	—	16	24	26	27	—	30	27/29	31	19	15	14	17
pH	5.5~8.6	7.9	7.0	6.8	7.2	—	7.0	7.3/7.6	4.1	7.4	7.6	7.1	7.8
BOD	500mg/l以下	7	110	11	15	—	※	2/2	※	※	8	4.9	1
SS	300mg/l以下	1未満	81	13	1未満	—	※	4/2	※	※	4	7	3

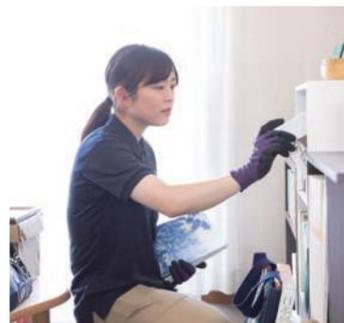
※自社記録漏れのため数値なし



少子高齢社会における「終活」の課題に応えるサービスの充実に努めています。

【事業の概要と思い】 地域のみなさまのお声に応じて誕生した「おかたづけ事業」

当社がこの事業を正式に立ち上げたのは2011(平成23)年のこと。元々はグループ会社の株式会社大栄における取り組みから派生したものです。ごみの収集サービスを行う一環として、10年以上前からあった地方自治体や個人のお客様からの遺品整理のご要望に応じて事業化しました。さらにさかのぼると、約40年前から行政機関などの依頼を受けて、孤独死された方などの住まいの片付け業務を行ってきた歴史があります。そして、2008(平成20)年頃から、少子高齢化を背景に遺品整理に対するご要望が増えたことに対応して、社会



課題に応えるため、「おかたづけ事業」を専門に行う組織を立ち上げたのです。

当事業を進めるに際しては、お客様の目線を何よりも大切にサービスの提供に努めるとともに、社会への貢献という観点から事業の価値向上に努めてきました。たとえば、受注からサービスの実施に至るまで、同じ担当者が最後までお世話をさせていただくことで、お客様の思いに寄り添ったサービスの提供が特長です。また、「おかたづけ事業」で生じた不用品については、一概に廃棄処分にするのではなく、価値のあるものを海外に輸出し、現地のリサイクルショップで販売する「海外リユース事業」が好評です。

従来、ごみの収集はご家庭の外で行うサービスであるのに対して、「おかたづけ事業」はご家庭の中で行うという違いがあります。しかし、ごみの収集にしても、おかたづけにしても、お客様のお困りごとに応えるという点では共通しており、「何とかお役に立ちたい」という願いのもと、「おかたづけ事業」の確立に取り組んできました。

代表取締役社長

赤澤 健一

料金の明朗化など業界の健全化に寄与する取り組み

近年、遺品整理や生前整理という言葉が社会に浸透しつつあります。しかし、事業を立ち上げた当時は、料金体系やサービスの内容が必ずしも明確でなく、業界として確立されたものとは言いがたい状況でした。そこで当社では、料金やサービス内容の明朗化を打ち出したほか、見積り後の追加料金をいただかないなど、業界の健全化に寄与するという思いのもとで事業を展開してきました。

また、当社グループの事業戦略という観点からは、従来の家庭ごみの収集、運搬という場面から、物の流れの川上に一歩踏み出し、家庭のお宅内でのお役立ちをめざしたいという思いがありました。加えて、新規事業の開拓を通じて、従業員のさらなる成長を促すという狙いもありました。

それとともに、グループ企業全体で廃棄物処理に対するコンプライアンスの徹底を図ってきたことから、「おかたづけ事業」を通じて回収した不用品についても、最終処分まで責任をもって対応しております。

事業を通じて
取り組むSDGs



【事業における特長と強み】 「おかたづけ事業」で生じた不用品を海外で活かす「海外リユース事業」が成長中

日本国内にて「おかたづけ事業」を通じて収集した品々。その価値を適正に見だし、海外に輸出することで「Used in Japan」の商品として販売しています。



おかたづけ事業

現在、兵庫県西宮市をはじめ、東京、名古屋の3拠点を中心に事業を行っています。2015(平成27)年からはフランチャイズ方式で店舗を増やしており、2020年3月末時点で全国で12店を展開。作業実績は2020年3月末時点で9,401件に達しています。

当社では、遺品整理および生前整理に加えて、残置物の撤去や特殊清掃、さらにはいわゆる「ごみ屋敷」への対応なども行っています。加えて、お客様のご要望に応じて、貴重品の買取やハウスクリーニング、消臭・消毒、お仏壇の処理といったさまざまなニーズにきめ細かく対応しています。

現在、遺品整理および生前整理に対するニーズが高まる中、異業種との連携が加速しています。不動産会社や葬儀社など500社以上と法人提携を行っているほか、証券会社や百貨店が開催する終活イベントなどで「おかたづけセミナー」を開催し、サービスの普及を図っています。今後、高齢社会がますます進展する中、大きな社会課題となっている遺品整理および生前整理について引き続き、真摯に対応してまいります。



おかたづけセミナー



海外リユース事業

「遺品整理や生前整理で生じた不用品を、資源として有効活用したい」。その思いから海外でのリユースの道を拓きました。東南アジアをはじめとして、「Used in Japan」の品物が人気であることに着目し、2013(平成25)年から「おかたづけ事業」にて回収した不用品を海外のリサイクルショップで販売しています。

現在、タイやフィリピンなど東南アジアをはじめ10カ国で販路を開拓。現地のニーズを事前に調査し、「必要な品を必要な場所へ」を合言葉に海外リユース事業を展開中です。日本においては、リユースによってごみの発生を抑制するとともに、処分費もかからないことから「おかたづけサービス」の料金を抑えることができます。一方、現地のお客様にとっては、「Used in Japan」を手頃な価格で購入できるため、両者にとってメリットのある事業として、今後の成長が期待できます。



現地リサイクルショップに並ぶリユース品々

【事業を通じた社会貢献】

廃棄するのではなく海外でリユースの道を拓く 国を超えた物の循環の仕組みを構築

当社では、遺品整理や生前整理で発生した不用品を、資源の有効利用のためにリユースしております。当初、モノの行く先を模索する中で、東南アジアでは日本で使用されたものが「Used in Japan」として人気があることがわかり、2013年に「おかたづけ事業」で回収した不用品をコンテナで海外に輸出し、現地のリサイクルショップで販売する「海外リユース事業」を開始しました。

現在では、不用品の回収から輸出までを自社内で一貫して対応し、タイやフィリピンを中心とした海外10カ国以上の販路を確保しております。現地のショップオーナーと直接契約を結ぶことで国ごとのさまざまな趣向に合わせて出荷することができるため、より多くの不用品を無駄なくリ

ユースできることも弊社の強みとなっております。

現地では「品質に厳しい日本人が使っているものなら安心」と非常に喜ばれております。一方、日本においては「おかたづけ」をされるお客様から、「大切にしていた品なので、必要な場所で使ってもらえるのはうれしい」との声を多くいただいております。

また、リユースすることで処分費がかからないことから、「おかたづけサービス」の料金軽減にもつながっており、「国を超えた物の循環の仕組み」を実現することができました。

これからも、必要とされているものを必要としている場所や人へ。当社は日本の社会課題と世界の人々の豊かな暮らしに貢献していきたいと考えています。



現地のリサイクルショップに並び日本人形や熊の置物



日本の商品が大好きと笑顔で話すリサイクルショップの店員の皆さん

従業員の声

相談されるお客様の気持ちを何よりも大切に、サービスの提供に努めています

「あなたに相談してよかった」と言われることが大きなやりがい

「おかたづけ事業」に関して、お客様からのお問い合わせに対応しています。遺品整理のサービスでは、電話でのご相談の際、不安や悲しい気持ちを抱えている方も多く、ご要望やお悩みを正しく理解し、不安を少しでも解消できるように、お客様の気持ちに寄り添うことを心がけています。

コロナ禍では、スタッフの訪問を心配されるお客様が多いことから、作業時における感染予防の取り組みについて、こちらから進んで説明するように努めています。

この仕事のやりがいは、お客様の立場で提案する

ことで、お客様から「あなたに相談してよかった」と感謝の言葉をいただく機会に恵まれることです。これからも、さまざまな事情を抱えて困っているお客様のために、親身になって相談に応じていきたいと考えています。そして、「リリーフに相談すれば安心」と言っていただけるように、サービス品質の向上に努めてまいります。



コールセンター
加藤 優

仕事を重ねていくことで、人間としての成長を実感しています

「おかたづけ事業」におけるお見積りや作業を行う上で大切なことは、自分たちが扱う物品はだれかの大切なもの、思い出の詰まったものと意識することです。自分がお客様の

立場となった時、大切に扱ってくれる人に仕事を頼みたいはずと気づいて以来、このことを常に心がけています。作業が完了した際、お客様から感謝の言葉をいただくことがあり、これを励み



おかたづけスタッフ
河野 元道

の一つひとつの仕事を丁寧に行っています。

コロナ禍においては、マスク着用での作業時、汗をかくと息苦しくなるなど大変ではありますが、お客様を不安にさせないように手の消毒などを含めて、感染予防を徹底しています。

この仕事の魅力は、お客様とのふれあいを通じて、人間的に成長できることにあります。私自身、当初はお客様と話すのが苦手だったのが、仕事を重ねることでコミュニケーションが上達してきました。これからも、お客様の立場で提案できるように努力していきたいです。

株式会社ダイキョウクリーン



代表取締役社長

津田 政房

お客様の信頼のパートナーとして、
飲食業界における衛生保全に貢献しています。

【事業の概要と立ち上げた思い】

お客様の声に応えて、グリストラップの清掃サービスを展開

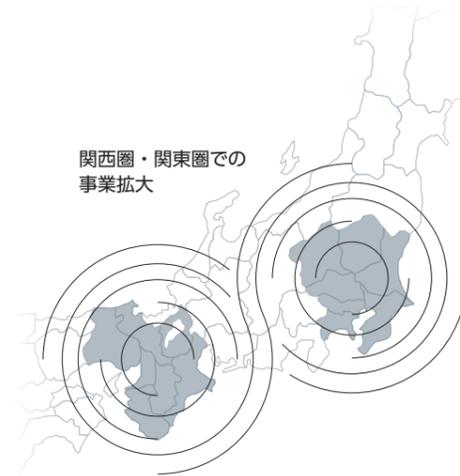
当社は、グループ企業の株式会社大協から派生して生まれた会社です。ごみの適正処理に取り組む中で、2010年に大手飲食チェーンのお客様から「厨房のグリストラップ(油水分離阻集器)の清掃で困っている」とのお声をいただいたことをきっかけに、その課題に応えるべくグリストラップの清掃事業を立ち上げました。

飲食店では、油を含む汚水が配水管設備を傷めないように、油分の分離処理を義務付けられています。グリストラップとは、業務用の厨房から出た汚水の中から野菜くずや残飯を金網状のバスケットで集めるとともに、グリース(油)が下水に流出するのを

トラップする(止める)装置のことで、水に浮いてたまった油は定期的な清掃が必要で、これを怠ると悪臭や害虫が発生しかねません。

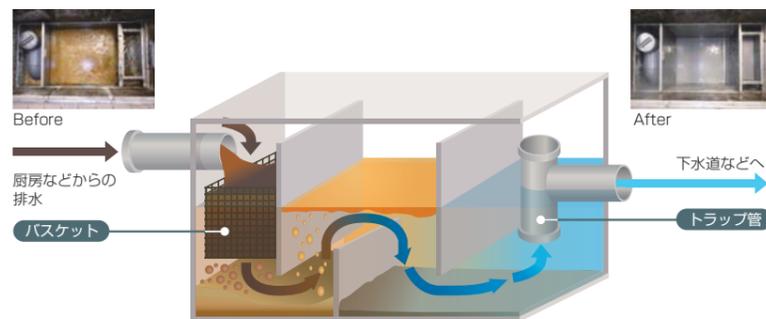
現在、当社ではこのグリストラップの清掃を手がけています。サービスの提供地域は、関西圏および関東圏の計14都府県に及んでおり、年間の施工数は2万件を超えるまでに拡大しています。また、高圧洗浄の技術、ノウハウを活かして、病院やショッピングモール、空港などの大規模施設における貯水槽や配水管などの清掃業務も手がけております。

当事業の原点は、お客様の業務環境を良好なものにしたいとの願いで

関西圏・関東圏での
事業拡大

す。環境ビジネスの展開を通じてお客様との信頼関係を築いてきた中で、業務におけるお困りごとに耳を傾けた結果として、新たなサービスを創出するに至りました。開始当初はさまざまな困難に直面したものの、株式会社大協で培ってきたごみの適正処理のノウハウを活かしながら、立ち上げのメンバーが創意工夫のもとで課題を一つずつ克服してまいりました。そして現在、清掃後にお客様先のグリストラップが新品のようにきれいになり、現場の方から驚きと感謝の声をいただくことが、私たちにとっての最大の喜びとなっています。

グリストラップの仕組み

事業を通じて
取り組むSDGs

【事業における特長と強み】

「お客様の役に立ちたい」という思いでサービス向上に努めています

当事業を展開する上での当社の強みは、グリストラップの清掃から処理までを一貫して対応できる点にあります。そして、多岐にわたる現場の状況に適切に対応するため、

従業員一人ひとりが「お客様が求めていることは何か?」を考えながら、サービスの提供を心がけており、それが当社固有の品質となっています。

法令順守による
適正処理の徹底

法令に基づいた業務の遂行。これが当社グループの創業以来の基本方針であり、グリストラップの清掃事業においても徹底しています。清掃時に回収した油や食品残さは産業廃棄物としてすべて適正に処理しており、業務完了後にそれを証明するマニフェスト伝票をお客様に発行しています。

ロードサイドから
複合施設まで幅広く対応

当社では、ロードサイドの店舗はもちろんのこと、対応が難しいとされる高層ビルや地下施設、大規模複合施設などの店舗にも適切に対応しております。状況がそれぞれ異なる店舗に対応するため、高圧洗浄車をはじめ、各種バキューム車、ポータブル清掃機材などをそろえており、お客様のご要望にきめ細かくお応えすることができます。



クレーンゼロを追求する高いサービス品質

清掃を手がける従業員はすべて「産廃プロフェッショナル」などの有資格者です。清掃器具の搬入から清掃、マニフェスト伝票の発行、搬出に至るまで、凡事徹底の

もとで丁寧な仕事を心がけています。2019年度は、2万件を超える施工においてクレーン件数はゼロとなっており、お客様に常に安心をお届けしています。

【事業を通じた社会貢献】

飲食業界とともに発展できるビジネスモデルの創出を追求していきます

当社では、サービスの提供を通じてお客様に喜ばれることが最大の価値であると、すべての従業員が思いを共有しています。また、業務によって水質汚染の防止や排出汚泥の削減に貢献することを会社の使命と考えています。自らの仕事がお客様のためになり、さらには社会のためになる。この価値観を全員で共有することで、サービスの向上をめざすとともに、従業員の満足向上につながっています。現在、事業規模が着実に拡大する中、従業員の育成に力を入れることで、さらに品質の高いサービスの提供をめざしてまいります。

中長期的な目標としては、現状では廃棄物の処理を外部に委託しているのに対して、自社で処理施設を保有することで、自社内ですべて完結できる体制を構築したいと考えています。さらには、回収した油分などをエネルギーととらえて、たとえば発電事業へと発展させていくことが夢です。こうした取り組みによって、飲食業界の衛生保全と地域環境の保全に貢献し、ともに持続的に発展できる仕組みづくりを構築してまいります。



株式会社大栄

代表取締役社長

木村 裕之

サービス業としての一般廃棄物収集運搬の価値向上に努めています。

いついかなる時もサービスを止めないことを使命に

当社は、一般廃棄物収集運搬の許可を受けた適正業者として、兵庫県西宮市にて家庭ごみおよび事業ごみなどの収集運搬、家庭系粗大ごみの回収などの業務を手がけています。いついかなる時もサービスを止めないことを第一に事業を継続するとともに、ごみの収集運搬を行う中で、地域のみなさまのお困りごとに真摯に向き合い、その解決に努めています。

また、当社グループの経営理念である「五方よし」の精神を堅持し、お客様をはじめ、従業員および協力会社の方々を含めて、人を大切にする企業として地域社会に密着したサービスの提供に努めています。

一般廃棄物収集運搬におけるサービスの明朗化を推進

長年にわたる事業展開を通じて、当社が注力してきたことの一つは、一般廃棄物収集運搬におけるサービスの明朗化です。約14年前、車両にごみを積み込むだけで重量を計測でき

るスケールパッカー車を業界に先駆けて導入しました。これに併せて、月ごとのごみの量や処理金額が一目でわかる「廃棄物計量システム」を導入したことで、ごみ収集量の「見える化」を実現するとともに、収集量に応じて料金を課す「従量課金制」を採用したことから、ごみの減量化によってお客様の経費削減につながる仕組みを構築しました。

ごみ収集量が減ることは、当社にとって売上げの減少を意味するものの、ごみの減量化こそ社会課題との信念のもと、事業を続けてまいりました。たとえ売上げが減っても、その分、処理費用が少なくて済むため、社会貢献と健全経営の両立を図っています。併せて、西宮市および地域住民のみなさまとの連携を通じて、早くからごみの分別に取り組んでまいりました。事業を通じて地域の環境への取り組みに貢献できることこそ、当社の誇りです。

業務に携わる人が誇りを 持てる事業をめざして

一般廃棄物収集運搬においては、業務に携わる人が誇りをもって取り

組める事業とすることが経営者としての使命です。そのため、安全運転やマナー向上をめざした従業員の教育に注力することで、地域住民のみなさまから選ばれる事業を日々追求しております。

2017(平成29)年からは、関西では初となる女性によるごみ収集チーム、「さくらチーム」を発足しました。西宮の市花である桜をモチーフにしたロゴで、街全体に一年中桜が咲いているようにとの想いが込められたさくら色のパッカー車はみなさまから高く評価されています。



収集したごみの量を計測するスケールパッカー

事業を通じて
取り組むSDGs

[事業における取り組みと課題]

自然災害や感染症を想定したBCPの策定と実行に注力しています

当社は、冒頭で申し上げた通り、いついかなる時もサービスを止めないという信念のもと、ごみの収集運搬を行っています。しかし、近年の地球温暖化や新型コロナウイルスの感染拡大など、サービスの遂行を妨げる事案が相次いでおり、BCP(事業継続計画)の策定と実行が経営において重要な課題です。

特に、2018(平成30)年においては、台風による水害により、ごみ収集車の駐車場が水没して業務に支障をきたしまし

た。こうした事態を受けて、今年4月には高台に新たに駐車場を確保し、水害への備えを万全にしています。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大もまた、ごみの収集運搬を安全に行う上で大きな課題です。当社では、3月時点からBCPに基づいて感染予防の徹底を図り、業務に携わる従業員の安全確保に努めています。一部業務に影響は出たものの、役職員を挙げてサービスの維持に努め、ごみを確実に収集するという使命をしっかりと果たしています。



住民のみなさまからの多数の応援メッセージに感謝いたします

今年春以降、新型コロナウイルスの感染拡大にともない、西宮市内においても感染者が増える中、ごみの収集運搬に従事する従業員は、常に感染のリスクを感じて緊張を強いられました。

これに対して、ごみの収集ルートにお住まいの方々から、多数の応援メッセージをいただきました。ごみ袋に貼られた心温かいメッセージの数々に励まされ、一同、勇気ややりがいをいただくことができました。あらためて感謝を申し上げます。



現場の声

たくさんの励ましの言葉や手紙、ありがとうございます

コロナ禍が続く中で、外出自粛にともない家財の整理をされる方が多いためか、ごみの量が増加傾向にあります。当社では収集車の消毒、作業スタッフの手洗いやうがいなど、感染防止に向けた取り組みを徹底しつつ、増え続けるごみの収集や処理に一致団結してあたってきました。

この間、地域のお客様からたくさんの励ましの言

葉や手紙をいただき、おかげさまでスタッフ一同、高い士気のもとで業務を行っています。コロナ禍はまだ続く状況ですが、地域のみなさまとともに困難を克服し、より住みやすい街づくりに貢献していきたいと考えています。

大津 博伸





地域社会との結びつきを大切に、
環境ビジネスを通じた貢献を追求しています。

代表取締役社長
森下 和尚

【事業の概要と立ち上げた思い】

働く人が「上を向いて歩む」企業風土の醸成をめざして

当社は、兵庫県伊丹市における一般廃棄物の収集運搬を通じて、地域住民のみならず快適に暮らせる生活環境づくりへの貢献を追求しています。そして、長年にわたる事業を通じて、ごみの適正処理や減量化に向けて取り組んできました。

経営を通じて日々大切にしていることは、「伊丹の大協」としての名に恥

じない企業とすることです。サービスをいかなる時も維持することはもちろん、地域社会に根ざしたサービスを提供する企業として、従業員のマナー向上に努めてきました。社会の中で欠かせないごみの収集運搬という仕事に対して、一人ひとりが誇りを持ち、「上を向いて歩む」企業風土をつくるのが大切であると考えて

います。

また、当社は地域の方々や行政に真摯に向き合うことで業界の健全化を進めてきましたが、ごみ回収業者としてだけでなく、地域のみなさまの豊かな生活を支える事業者として、今後も新たなサービスの創出に努めてまいります。

【新規分野への挑戦】

環境ビジネスに特化した人材派遣業で業界への貢献をめざす

ごみの収集運搬業務においては、人材の確保が大きな課題となっています。そこで当社では、2017年度から環境ビジネスに特化した人材派遣サービス「Gcareer（ジーキャリア）」を立ち上げました。長年にわたってごみの収集運搬に携わってきた経験を活かし、取引先様の要望に即した人材の派遣を行っております。

当事業は3年目を迎え、ドライバーから作業スタッフに至るまで安定した数の人材を確保している一方、取

引先様の数も増加しており、新事業として着実に成長しています。

「Gcareer」の強みは、人材育成のための充実したカリキュラムにあります。ドライバーについては2週間、作業スタッフは1週間の実施研修を行い、地域ごとに異なる作業の進め方や車両の運転、安全管理などを指導した上で、取引先様に派遣しています。

当事業の展開に際しては、「人を大切に」する企業グループとして働く人



に寄り添った制度づくりを重視しています。特に近年は、働く場所や働き方に対するニーズが多様化しており、それに応える仕組みが重要です。正社員やアルバイトといった雇用形



実施研修の様子。ベテランスタッフの指導のもと、作業の基本を学びます。

事業を通じて
取り組むSDGs



態に加えて、派遣という選択肢を加えたことで、スタッフ一人ひとりの価値観や事情に即した働き方を提供できると考えています。

さらに、取引先様にて「正社員として人材を採用したい」というご要望も多いことから、昨年度から新たに

人材紹介サービスの事業も開始しました。こうした取り組みを通じて、働く人および取引先様の双方にメリットのあるサービスを提供することで、環境ビジネス業界の健全な発展に貢献していきたいと考えています。



安全運転の徹底に向けて、車両の操作方法について指導を受けます。

【事業における取り組みと課題】

環境ビジネスに関するあらゆる課題に応える企業へ

当社としては、環境ビジネスに誇りをもって取り組む企業として、サービスの維持と品質向上を追求しています。近年、自然災害や感染症など事業の継続にかかわるリスクが徐々に顕在化しておりますが、当社としては、BCP（事業継続計画）を通じて、いかなる時もサービスを止めない体制を確立してまいります。

また、お客様のご要望に対しては「最初からけっして断らない」をモットーに、課題解決に取り組んでいます。そのため、社内では課題解決に関する小委員会を数年前から設け、チームごとに話し合いを重ねています。今後も「大協ならば、

相談すればきっと応えてくれる」とお客様からおっしゃっていただける企業をめざしてまいります。



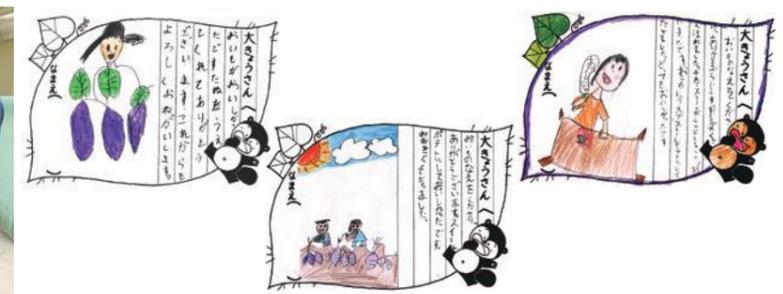
小委員会での会議風景



サツマイモの苗を寄贈しています

当社は、CSRの観点から地域社会の結びつきを重視しています。2010年度から毎年、伊丹市内の小学校や特別支援学校、幼稚園などに、サツマイモの苗を提供し、栽培を通じて子どもたちの環境教育や食育への貢献を図ってきました。これは「NPO法人こど

も環境活動支援協会（LEAF）が主宰し、当社グループも参加している「甲山農地プロジェクト」を通じて、枯れ葉のたい肥で育苗したものです。今後も地域のみなさまと連携した活動を展開してまいります。



ESGの取り組み

当社グループは創業以来、地域の暮らしと産業が抱える課題に真摯に応えることを使命に事業を展開してまいりました。また、社会とともに歩む企業グループとして社会的責任を果たすことを心がけております。コーポレート・ガバナンスの強化はもちろんのこと、環境、社会の経営課題に長年にわたって取り組み、一歩ずつ前進してまいりました。今後もこれまで培ってきた経営基盤のもと、社会と産業における新たな課題の解決に向けて注力してまいります。

コーポレート・ガバナンス P32

- 組織統治
- 法令順守
- 情報開示・説明責任



環境における取り組み P37

- マテリアルバランス
- 活動の目標と実績
- 環境負荷低減の取り組み
- 環境パフォーマンスデータ



従業員とともに P41

- 活動の目標と実績
- 労働安全衛生の取り組み
- 人事に関する取り組み
- 安心して働ける環境づくり



地域社会とともに P46

- 活動の目標と実績
- お客様とのコミュニケーション
- 消費者課題の取り組み
- 苦情・事故



コーポレート・ガバナンス



健全で透明性の高い経営に向けた取り組みを強化し、ステークホルダーのみなさまの信頼に応えてまいります

【基本的な考え方】

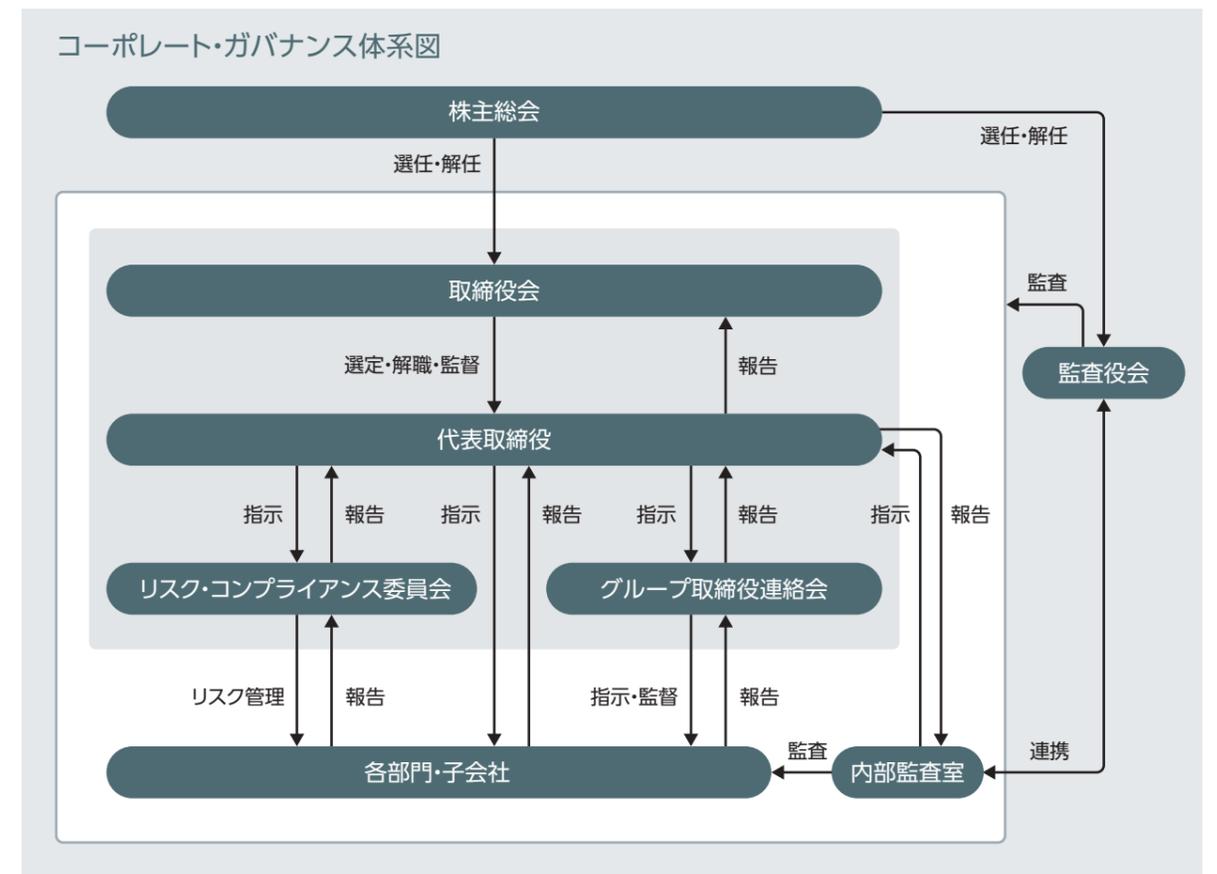
グッドホールディングスグループは、法令を順守し健全で透明な企業経営を行うことを基本に、「事業」を通じて優れたサービスを提供することにより、社会の発展に貢献するとともに、ステークホルダーからの期待と信頼に応えることを基本的な考えとしています。

組織統治

経営管理体制

「透明性の確保」「円滑な業務遂行」を重視しています

当社グループは、すべてのステークホルダーから安心・信頼される企業グループであり続けるため、健全で透明性の高い事業および経営に努めています。また、グループ全体の持続的成長および中長期的な企業価値向上をめざし、コーポレート・ガバナンスの構築、強化に努めています。



その他の会議体

グループ部門責任者会

グループ各社の役職者が集まり、各社の収支実績や活動内容などを報告するとともに、有益な取り組みや問題点などを互いに認識し参考にする事で、自社内の活動の見直しや改善を図るための情報共有の場となっています。

各社事業会議／定例会

会社の方針や課題について協議することで、円滑な業務執行を図っています。

取締役会

経営の重要な意思決定と取締役の業務執行の監督を行います

当社の取締役会は7名(うち社外取締役1名)により構成されており、経営の重要な意思決定と各取締役の業務執行の監督を行っております。また、独立性の高い社外取締役より、客観的な提言および助言を得ております。

リスク・コンプライアンス委員会

総合的なリスク管理とコンプライアンスの徹底に取り組みます

月に一回開催する当委員会は、グループ代表取締役社長を委員長とし、監査役、各子会社代表取締役社長、取締役および委員長から指名された委員で構成されています。会合では潜在的・顕在的なリスクやコンプライアンス違反などについて協議・検討し、総合的なリスク管理に努めるとともに、研修教育を行い、企業の社会的責任とコンプライアンスの徹底に取り組んでおります。

リスク・コンプライアンス委員会では2019年度において、下記のような議題について報告、協議などを行ってまいりました。

反社会的勢力のチェック	販売先や取引先が反社会的勢力でないかのチェック状況の報告および課題についての協議
労務管理	時間外労働時間の実績(単月、累積)、入退社数の状況、有給休暇の取得状況などの報告および課題についての協議
内部監査報告・改善状況報告	実施した監査内容の報告および改善状況の報告
教育研修	研修の計画および実施、2019年度は下記の研修を実施いたしました ・インサイダー取引防止、取引管理規程について ・個人情報保護教育、情報セキュリティについて ・ハラスメント防止について(管理者向け、全従業員向け)
事故報告	各社で発生した事故(車両や設備などでの事故および情報システム障害やセキュリティ事故含む)の概要および防止策などの報告
規定などの制定、改訂	<ul style="list-style-type: none"> ・景品表示法にかかわる基本マニュアルの制定 ・入札に関するコンプライアンス徹底マニュアルの制定 ・監査役会規程の制定 ・株主取扱規程の制定 ・自己啓発支援制度規程の制定 ・就業規則の改訂 ・賃金規程の改訂 ・職能グレード規程の改訂 ・育児・介護休業関連規程の改訂 ・アルバイト就業規則の改訂 ・IT管理規程の改訂 ・情報セキュリティ安全管理規程の改訂
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策実践内容の共有、発症時の対応などBCPマニュアルの改訂を協議 ・受動喫煙防止対策の取り組み

監査役会

業務執行の監視、監督を行っています

当社の監査役会は、常勤監査役1名、社外監査役2名によって構成し、監査役会規程に基づき原則毎月1回開催し、重要事項について報告、協議、決議を行っております。社外監査役2名は、それぞれ弁護士、公認会計士で、専門的見地と独立した立場から監査を行っております。取締役会のほか、グループ取締役連絡会などの重要な会議に出席し、重要な意思決定の過程および業務の執行状況の把握に努めるとともに、必要に応じて取締役に対して勧告などを行い、是正を求めています。

VOICE



グッドホールディングス株式会社 常勤監査役 八鳥 尚志
グッドホールディングス株式会社 社外監査役 上田 憲
グッドホールディングス株式会社 社外監査役 南方 得男

内部統制は目標達成の障害であるリスクをコントロールするためにあります。当社グループにもこれが整備運用されており、人・モノ・カネ・情報という経営資源の有効活用につながっています。内部統制の基本的要素の一つに「統制環境」があります。経営理念と行動指針などのルールとそれに基づく言動がこれにあたります。

当社グループでは、関係する方々に満足してもらうことを「五方よし」という経営理念に込めています。経営理念には先輩の成功、失敗、生き方など知見が込められています。経営理念を理解できれば、解決すべき課題、その解決方法や言動の選択に役立ちます。それらをすべての社員が理解し実践することは難しいかもしれませんが、迷った時に先輩ならどうするだろうか、自分の選択と言動を家族に話して恥ずかしくないか、と考えてみてほしいと思います。

監査役も経営理念や行動指針を理解した上で、経営に携わる取締役が、入手可能な情報を収集し、社員の意見を聴き、実施可能で合理的な選択の上で意思決定しているかどうかを監査しています。その経営判断を関係する方々に説明できるかどうかを検討し、内部統制が適正に整備運用されていることを担保しています。

内部監査部門による監査

内部監査による検討評価、助言・提案、フォローアップ監査を徹底しています

内部監査組織として代表取締役の直轄部署として監査部門を設置し、当社グループ全体の会計、業務、コンプライアンス、情報システムならびにリスク管理など専門的な知識を効果的に実施できる体制を整えています。内部監査結果については、内部監査報告書として取りまとめ、改善を要する事項が発見された場合には、助言・提案を行うとともに、被監査部門による改善状況をフォローアップ監査により確認しています。

また、内部監査の実施状況はグループ全役員も参加するリスク・コンプライアンス委員会で報告し、委員会メンバーと共有しております。

グループ取締役連絡会

グループ全役員による連絡会で協議を行います

当社グループ全役員および監査役、内部監査室長で構成され、月に1回開催しております。各子会社からの業績報告や決議事項についての協議を行い、グループ内の共通認識を図る機関として運営しております。

業績報告会

全従業員に業績をオープンにしています

売上高や利益高などを報告する業績報告会を、子会社ごとに毎月1回行っております。この業績報告会では、役職者だけでなく、一般社員やアルバイトなどすべての従業員を対象にしており、全社や各部門の収益状況、その分析などが報告されます。会社の業績をオープンにし、従業員が経営状況を正しく理解することにより、事業運営への参画意識が高まり、経営課題や業務の改善につながっております。

内部通報制度

不正行為の未然防止、早期発見を図っています

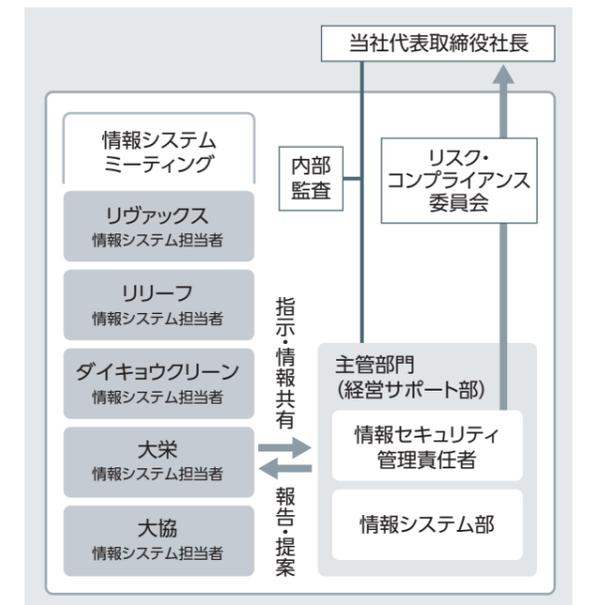
当社グループでは、法令違反、規程違反、社会通念に反する行為などを早期に発見し、不正行為を未然に防ぐとともに必要な改善を図り、コンプライアンス経営の推進を目的として、内部通報・相談窓口(グッドホールディングス・ヘルプライン)を設置しております。通報・相談窓口は、社内と社外の両方に設置し、匿名での通報や組織的な問題に関する通報を行いやすいよう配慮した制度になっております。

情報システムセキュリティ体制

事業活動において取り扱う情報資産の保護を私たちの責務にとらえ、サービスの継続的な提供と健全な事業の発展に努めています

当社グループの取り扱うさまざまな情報資産に対する、漏洩や改ざん、紛失などのリスクを回避・低減するため、「情報セキュリティ安全管理規程」ならびに「IT管理規程」を定め、情報セキュリティにかかわるリスク管理を行っております。また、規程の管理・運用は各社の情報システム担当者が担い、定期的に行われるミーティングやリスク・コンプライアンス委員会で、組織全体の情報セキュリティ体制を常時見直し、徹底した情報資産の保護・管理に努めております。

情報システムセキュリティ体制



法令順守

法令順守状況

2019年度も重大な違反はありませんでした

グループ各社ごとに順守すべき法令を特定し、その順守に努めています。また、法令で定められた時期に行政へ必要な報告をしているか、法令に則った運用が適正に行われているかなどを、適宜確認しています。

2019年度においても、前年度に引き続き重大な違反はありませんでした。

事業に関する主な法令(抜粋)

法令	名称
廃棄物の処理および清掃に関する法律	廃棄物の処理基準、マニフェスト伝票の交付と管理、委託契約書の締結と管理、収集運搬車両への表示と書面の備え付けなど
大気汚染防止法	NOx、ばいじんなどの排出基準
下水道法	排水の下水道放流基準など
騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法	騒音、振動、悪臭基準
道路交通法	走行速度、停車・駐車禁止、過積載の禁止
道路運送車両法	自動車の点検および整備義務
エネルギーの使用の合理化などに関する法律	エネルギーの使用状況報告、管理員の選任など
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告
労働安全衛生法	安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施など
酸素欠乏症など防止規則	濃度測定、保護具・避難用具の常備と点検など
消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検など
西宮市との環境保全協定	大気・悪臭などの測定方法や回数など

順守評価の実施

「順守評価記録」を活用し、法改正にも迅速に対応しています

当社グループに適用される法令は法的要求事項として一覧にまとめ、「順守評価記録」で管理しています。この記録に従って、法的要求事項が守られているかを評価するとともに、万一、違反が発見された時は是正処置を行う手順を確立しています。事業にかかわる法改正については、当該記録項目を改訂するとともに、必要な対応とあわせて関連部署に伝達し、社内に展開しています。

順守評価記録

過積載の防止

お客様の廃棄物重量と車両の最大積載量を毎回照合しています

産業廃棄物の収集運搬を行うグループ会社の株式会社リヴァックスでは、毎回取得しているお客様の廃棄物重量データと車両の最大積載量を照合し、過積載の防止に努めています。積載量を超過した場合は、お客様に報告して一緒に原因を考え、その対策を講じています。

処理前契約締結の徹底

お客様との事前契約締結を徹底しています

産業廃棄物の処理を委託および受託する際には、委託契約の締結が法律により定められています。当社グループでは、契約書の事前締結を徹底し、締結されないまま処理を受託する法律違反を防止しています。とりわけ、産業廃棄物事業を主体とする株式会社リヴァックスでは、取引開始前にお客様情報を登録し、定期的に関係者で締結確認を行うことにより、処理前の契約締結に努めています。

情報開示・説明責任

サステナビリティレポートの発行
事業活動だけでなく、社会や環境への取り組みをお伝えするコミュニケーションツールとして、毎年発行しています

廃棄物処理事業そのものや、当社グループの取り組みを広く知っていただきたいとの思いで、株式会社リヴァックスは2002年から、株式会社大栄および株式会社大協は2008年から報告書を発行してまいりました。2015年からはホールディングス体制への移行を機にグループ統括で毎年発行しております。

昨年発行の「サステナビリティレポート2019」においても、昨年に引き続き環境コミュニケーション大賞において優良賞を受賞いたしました。



今後もステークホルダーの皆さまと私たちを結ぶ重要なコミュニケーションツールとして、引き続きその充実に努めてまいります。



産廃情報ネットでの情報開示
優良産廃処理業者認定制度に沿って情報を公開しています

2011年度に産廃処理業者優良性評価制度が大幅に改定され、新たに「優良産廃処理業者認定制度*」が創設されました。各社で兵庫県や大阪府をはじめ、複数の自治体の適合認定を受けています。公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営する「産廃情報ネット」は、ここに情報を掲載すると新制度で求められる事業の透明性にかかわる基準に適合するように構築されており、許可内容や財務諸表などの情報を同サイトで公開しています。

*優良産廃処理業者認定制度：5つの基準(①実績と遵法性 ②事業の透明性 ③環境配慮の取り組み ④電子マニフェスト ⑤財務体質の健全性)すべてに適合する優良な産廃処理業者を都道府県・政令市が認定する制度。

【産廃情報ネット】 <http://www.sanpainet.or.jp/>

メールニュース・Webでの開示
活動報告、活動状況などを掲示・メール配信しています

毎月、各社の最新の活動報告やセーリングチームの活動状況などをWebサイト(<https://www.goodhd.co.jp/>)にて掲載しております。また、各社が自社の活動報告やイベント告知をお知らせするほかに、グループ共通で展示会・セミナーの案内などをメールニュースにて配信しています。これ以外にも月1回、リヴァックスでは「廃棄物・リサイクル関連法の最新情報」として、法改正の状況や行政が主催する案内を配信しています。



Webサイト



メールニュース

環境における取り組み



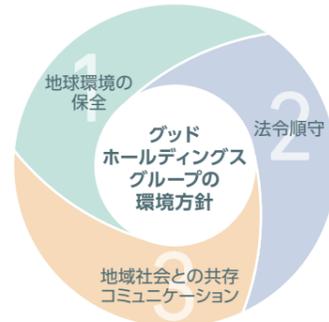
全グループを挙げて、事業活動における環境負荷の低減に努めています

[基本的な考え方]

地球環境を守り、社会の持続的な発展に貢献していくことは私たちの責務です。グッドホールディングスグループは、地球環境の保全、法令順守などへの取り組みを継続し、事業環境にともなう環境負荷の低減などに努めています。

マテリアルバランス

2019年度における事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入量 (INPUT)と二酸化炭素 (CO₂) などの環境への排出量 (OUTPUT)は次のとおりです。INPUTとOUTPUTを把握した上で、資源の有効活用および環境負荷の低減に取り組んでいます。

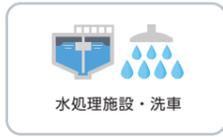


INPUT

エネルギー		
電気	3,086 千kwh	前年度比 8% ↑
都市ガス	62,981 m ³	前年度比 40% ↓
軽油	14.0 kl	前年度比 10% ↓
軽油	589.4 kl	前年度比 3% ↓
天然ガス	17,084 Nm ³	前年度比 9% ↑
電気	167 千kwh	前年度比 1% ↓
都市ガス	561 m ³	前年度比 1% ↑
ガソリン	30,869 kl	前年度比 12% ↑



水資源		
上水道	5,590 m ³	前年度比 ±0% →
工業用水	59,425 m ³	前年度比 9% ↑



OUTPUT

CO ₂ 排出		
CO ₂ 排出	3,110 t-CO ₂	前年度比 9% ↓
電気	1,086 t-CO ₂	前年度比 13% ↓
都市ガス	140 t-CO ₂	前年度比 40% ↓
軽油	36 t-CO ₂	前年度比 10% ↓
軽油	1,679 t-CO ₂	前年度比 2% ↓
天然ガス	38 t-CO ₂	前年度比 9% ↑
電気	59 t-CO ₂	前年度比 22% ↓
都市ガス	1 t-CO ₂	前年度比 ±0% →
ガソリン	71 t-CO ₂	前年度比 12% ↑

水域への排出		
排出量	56,968 m ³	前年度比 ±0% →

▶ 公共下水道への排出量
※排水の一部はリヴァックスの冷却塔で蒸発

二酸化炭素 (CO₂) の排出係数 参考データ (環境省)
 供給された電気 (関西電力) 0.000352t-CO₂/kWh
 軽油 (単位発熱量) 37.7GJ/kl (排出係数) 0.00258tC/GJ
 都市ガス (単位発熱量) 44.8GJ/千Nm³ (排出係数) 0.00223tC/GJ
 天然ガス (単位発熱量) 43.5GJ/千Nm³ (排出係数) 0.00222tC/GJ
 ガソリン (単位発熱量) 34.6GJ/kl (排出係数) 0.00232tC/GJ

活動の目標と実績

活動企業	2019年度目標	2019年度実績	結果	2020年度目標
リヴァックス				
処理・運搬におけるエネルギー使用量削減 (原単位あたり)	電気: 90.13kWh/t以下 燃費: 3.95km/ℓ以上	90.63kWh/t 3.86km/ℓ	×	90.13kWh/t以下 3.95km/ℓ以上
オフィスにおけるエネルギー使用量削減	電気: 4,030kWh/月以下 燃費: 21.52km/ℓ以上	4,283kWh 21.34km/ℓ	×	4,030kWh/月以下 21.52km/ℓ以上
安心・信頼される廃棄物処理サービスの追求	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ	6件*1	×	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ
	悪臭・排水処理施設の自主基準値順守	臭気測定・排ガス: 基準値クリア 排水の適正処理: pH超過1件発生	×	悪臭・排水処理施設の自主基準値順守
リリーフ				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 7.0kWh以下	4.5kWh*2	—	4.5kWh以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 14.2km/ℓ以上 軽油: 6.4km/ℓ以上	14.3km/ℓ 6.9km/ℓ	○	14.3km/ℓ以上 6.9km/ℓ以上
環境負荷の低減	事務所内の廃棄物減量: 1,046kg以下	886kg	○	886kg以下
ダイキョウクリーン				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 3.3kWh以下	4.5kWh*2	—	4.5kWh以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 5.53km/ℓ以上 軽油: 5.79km/ℓ以上	8.31km/ℓ 5.43km/ℓ	○	8.31km/ℓ以上 5.43km/ℓ以上
環境負荷の低減	水: 598.8m ³ 以下 事務所の廃棄物減量化: 262.1kg以下	649.9m ³ 275.5kg	×	649.9m ³ 以下 275.5kg以下
大栄				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 3.3kWh以下	4.5kWh*2	—	4.5kWh以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 11km/ℓ以上 軽油: 2.62km/ℓ以上 天然ガス: 3.76km/Nm ³ 以上 水の使用量削減: 2,096m ³ 以下	11.4km/ℓ 2.62km/ℓ 3.67km/Nm ³ 2,096m ³	○	11.4km/ℓ以上 2.62km/ℓ以上 3.67km/Nm ³ 以上 2,096m ³ 以下
環境負荷の低減	事務所内の廃棄物減量化: 560kg以下 CO ₂ 排出量削減: 564,059kg -CO ₂ 以下 グリーン購入の推進	560.6kg 564,059kg -CO ₂ コピー用紙など対象品目の購入	×	560.6kg以下 564,059kg -CO ₂ 以下 継続的な実施
大協				
エネルギー使用量削減	電気: 25,474kWh以下 ガソリン: 12.62km/ℓ以上 都市ガス: 81.4m ³ 以下	25,896kWh 13.44km/ℓ 89.5m ³	×	25,896kWh以下 13.44km/ℓ以下 89.5m ³ 以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	コンテナ車: 4.3 km/ℓの±3% 大型車: 2.44 km/ℓの±3% 小型車: 3.44 km/ℓの±3% 平ボディ車: 4.8 km/ℓの±3%	4.44km/ℓ 2.45km/ℓ 3.38km/ℓ 4.66km/ℓ	○	4.44km/ℓの±3% 2.45km/ℓの±3% 3.38km/ℓの±3% 4.66km/ℓの±3%
環境負荷の低減 (資源の使用量削減)	水: 1,489m ³ 以下 紙: 105.75kg以下 事務所の廃棄物減量化: 282kg以下	1,463m ³ 139.5kg 359kg	×	1,463m ³ 以下 139.5kg以下 359kg以下
グッドホールディングス				
エネルギー使用量削減	電気: 16,570kWh以下	16,731kWh	×	16,731kWh以下

※1 臭気の苦情に関して、隣地業者より複数回発生したが、都度対応し改善している。特に非定常時に発生リスクが高くなっており、対策を検討済み。
 ※2 鳴尾浜本社に所属する事業会社の振替基準を1:1:1へ変更

環境負荷低減の取り組み

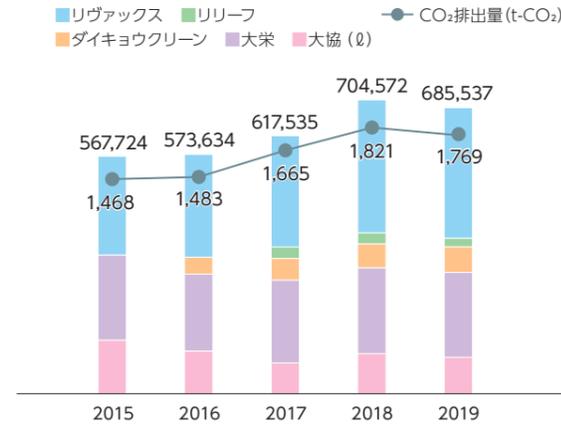
軽油使用量

エコドライブに努めています

廃棄物の収集運搬で使用する各車両をはじめ、場内で利用するフォークリフト、ショベルなどの燃料に軽油を使用しています。

今年度は、軽油使用量が685,537ℓ、CO₂排出量が1,769t-CO₂と、前年度より3%減少しました。今後も引き続きドライバーの意識を高め、エコドライブの徹底や、定期点検を実施していきます。

軽油使用量



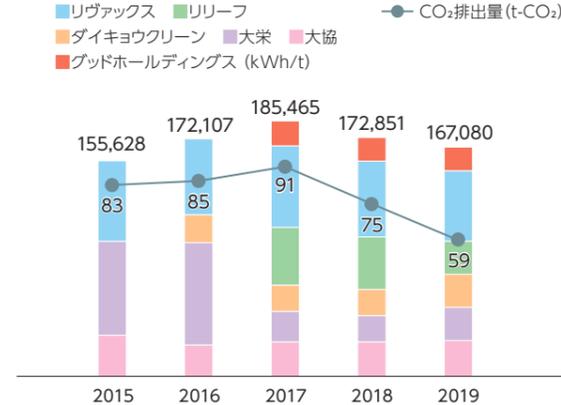
オフィスの電気使用量

照明点灯時間の短縮、空調の温度管理で省エネ活動を推進しています

2019年度のオフィスでの電気使用量は167,080kWhで、前年度より3%減少しました。引き続き、オフィスでの照明点灯時間の短縮と、空調の温度管理などによる省エネルギー活動を実施してまいります。

※ 前年度の「サステナビリティレポート2019」の合計電気使用量の値に誤りがありました。今回、正しい数値を掲載しています。

オフィスの電気使用量



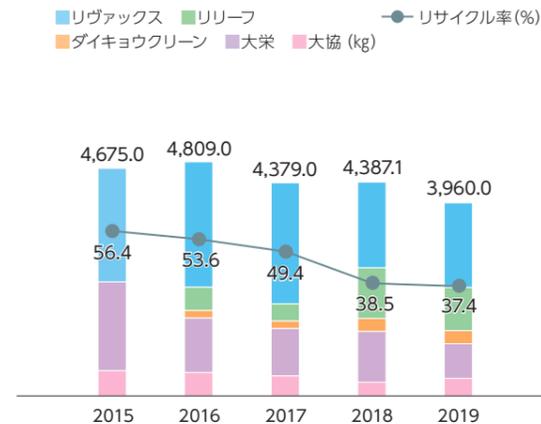
オフィスのごみ排出量

分別・リサイクルの徹底に努めています

オフィスから排出する廃棄物はリサイクルの可否を基準に種類ごとに分別し、リサイクルを推進しています。

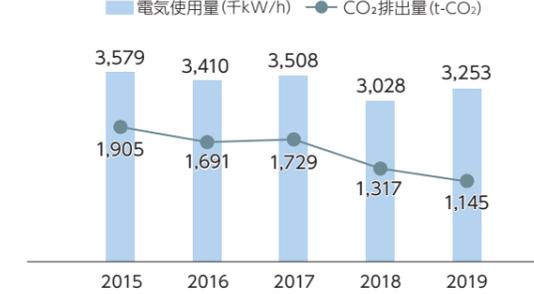
2019年度のオフィスからの総排出量は3,960kg、リサイクル率は37.4%でした。会議などで使用していた紙をデータで共有するなどにより無駄な紙の使用を控え、排出量は10%、リサイクル率は1.1%減少いたしました。

オフィスのごみ排出量



環境パフォーマンスデータ

処理センター・オフィスの電気使用量



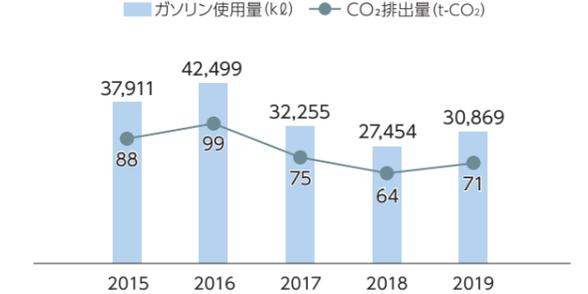
都市ガス使用量



天然ガス使用量



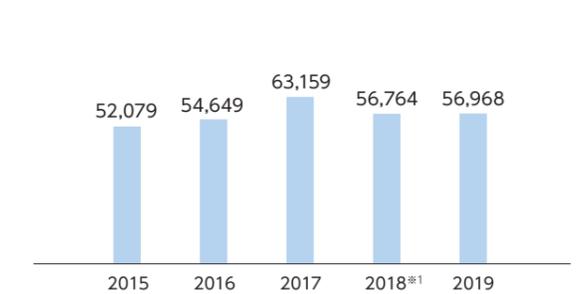
ガソリン使用量



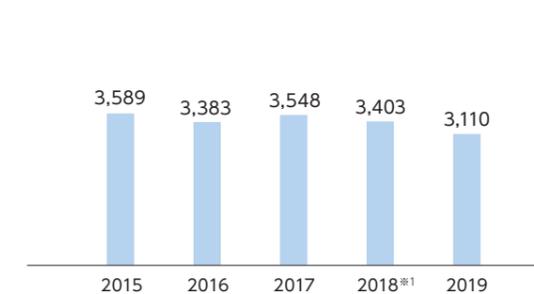
水使用量



水域への排出量 (m³)



CO₂総排出量 (t-CO₂)



軽油の燃費



※1 前年度の数値に誤りがあったため、正しい数値を掲載しております。

従業員とともに



一人ひとりが仕事に誇りと生きがいを持てる企業グループをめざして

[基本的な考え方]

グッドホールディングスグループは、あらゆる人の尊厳と人権を尊重し、その重要性と普遍性を認識しています。また、従業員一人ひとりの個性を活かし、ゆとりや豊かさを実感し、生きがいをもって働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

活動の目標と実績

活動のテーマ	社員ならびに従業員とその家族を含め、お客様のために働くすべての人たちが安心して働ける職場環境づくり			
	2019年度目標	2019年度実績	結果	2020年度目標
リヴァックス	事故ゼロ			
	労働災害：0件	1件	×	0件
	物損事故：9件未満 (2018年度比50%削減)	15件	×	8件未満 (2019年度比50%削減)
	安心して働ける職場づくり			
	パトロールの実施：月1回	月1回	○	月1回
	社内一斉清掃の実施：年2回	年2回	○	年2回
リリーフ	事故件数の削減			
	3件以下(2018年度比50%削減)	労働災害：1件 物損事故：2件 環境事故：1件	×	2件以下 (2019年度比50%削減)
ダイキョウクリーン	事故件数の削減			
	1件以下(2018年度比50%削減)	物損事故：2件	×	1件以下 (2019年度比50%削減)
大 栄	事故件数の削減			
	10件以下(2018年度比50%削減)	労働災害：2件 物損事故：9件	×	6件以下 (2019年度比50%削減)
大 協	事故件数の削減			
	5件未満(2018年度比50%削減)	労働災害：3件 物損事故：3件 環境事故：1件 人身事故：5件	×	6件以下 (2019年度比50%削減)
グッドホールディングス	情報セキュリティ事故件数			
	深刻、重大事故：0件	0件	○	0件
	限定的、軽微事故：4件以下	1件	○	2件以下
	情報システム障害件数			
	深刻、重度障害：0件	1件	×	0件
	限定的、軽微障害：10件以下	1件	○	6件以下
	36協定違反：0件	0件	○	0件
	有給休暇取得5日以上：100%	取得率：88.7%	×	有給休暇取得5日以上：100%

労働安全衛生の取り組み

リスクアセスメント／ヒヤリハット 毎年すべての作業工程におけるリスクを 洗い出し、対策を講じています

株式会社リヴァックスでは、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)に基づいて、年1回、全社員ですべての工程におけるリスクアセスメントを行っています。2019年度は670件の危険源を抽出し、その中からリスクポイント

の高い危険源を194件特定し、リスク管理を実施しました。リスクへの対策は、危険源となる作業や行為そのものを除去することを優先し、次いで危険源を隔離する(例:安全策の設置)などハード面の対策、危険の見える化、そして手順の整備、教育訓練、保護具の着用という順で対策を講じています。また、事故に至らずともヒヤリハットの抽出も常時行っており、2019年度は179件でリスクアセスメントを実施しました。

ドライブレコーダーの活用 収集業務の全車両に搭載し、事故を未然に防ぎます

株式会社大栄および株式会社大協では、収集業務で使用する全車両にドライブレコーダーを車両前後に搭載し、ドライバーの運転を管理しています。ドライバーが自身の運転特性を把握し、安全運転を意識すること、運転技量を向上させることを目的としています。また、運転時に生じたヒヤリハットを記録し、従業員への安全教育や改善指導に使用することで、交通事故の防止に役立てています。



ドライブレコーダーの映像

酸素欠乏および硫化水素中毒対策 保護具着用訓練を毎月実施しています

有機性廃棄物の処理をする株式会社リヴァックスでは、廃棄物から発生する硫化水素中毒や、污泥貯留槽に入る時に起こる酸素欠乏を大きな危険源と想定しています。そのため、貯留槽のメンテナンスを行う処理センターでは、毎月エアラインマスクをはじめとする保護具着用の訓練を実施し、事故の未然防止に努めています。

環境・安全に対する対策 安全管理および廃棄物管理に関する研修に参加しています

廃棄物に関する基礎知識の習得、環境保全および労働安全に対する意識付けを目的とし、大阪府産業資源循環協会が実施している廃棄物管理士講習会に参加いたしました。また、廃棄物の収集・運搬課程についても知見を深めるため、産業廃棄物または特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会へも参加しております。

交通安全運転講習 作業員全員が安全講習を受講し事故防止に取り組んでいます

当社グループは全体で約119台の業務車両を保有しております。事業を行う上で、「安全」は最優先事項であり、グループを挙げて交通事故防止に取り組んでおり、安全運転を徹底するための教育の一つとして、清掃組合主催の交通安全講習会に作業に携わる従業員が全員参加し、事故の実例や普段見落としがちな危険について学んでいます。



交通安全講習会

5S活動の推進 「整理・整頓・清掃・清潔・躰」

きれいな職場を保つことが労働安全衛生につながるの考えのもと、これまでの3S活動に加えて、5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進しています。備品や工具類の使用頻度基準を定め、それをもとに必要な数および保管場所を決め、だれが見てもわかるよう「見える化」する、書類をデータ化し廃棄するなど、さまざまな手段を講じています。これらの活動は、仕事に使う備品や道具を探し回るような無駄な動きを減らし、生産性の向上にもつながっています。



人事に関する取り組み

人事制度

「年功型」と「成果型」に加え、「技能・知識型」を調和させた人事制度を運用しています

当社グループでは、社員が安心して働くことができ、かつ取り組んだ仕事の成果が正当に評価される人事制度をめざしております。人事制度は、社内外の環境の変化に適応し、その時の状況に合ったものに変化させていくことが大切であると考えております。2013年度までは各社が独自の人事制度を運用しておりましたが、新しい事業が生まれる中で、まじめにがんばる人やチャレンジする人を応援し働きがいを感じられる制度をめざし、2014年度に株式会社大栄および株式会社大協において人事制度を見直し、「年功型」と「成果型」を調和させたグループ共通の人事制度を導入いたしました。

さらに、グループ各社の今後の成長や展開を踏まえた上で、多様な人材の活躍に対して正当かつ柔軟に処遇・評価を行うことを目的に、2018年度から人事制度の見直しを行いました。給与体系の考え方を整理し、「年功型」と「成果型」、さらに「技能・知識型」と3つの観点から調和させた制度で、有資格者や専門的な知識を有する社員には、それに合った手当を支給するなどの見直しを行い、2019年度時点で合計115名に資格取得の手当を支給しております。

人事制度の変遷



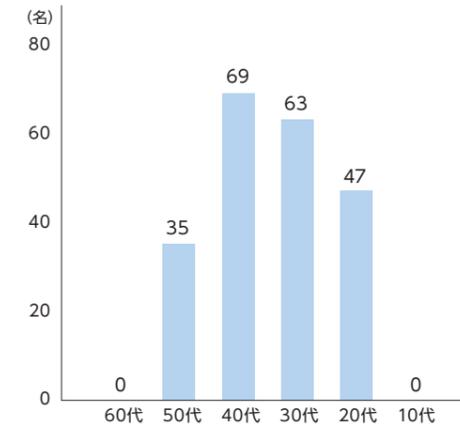
人事関連データ

種類	年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019
社員	(名)	141	143	145	161	198	214
アルバイト	(名)	55	52	50	57	57	65
従業員数 ^{※1}	(名)	196	195	195	218	255	279
女性従業員比率 (%)		9.7	13.6	14.7	15.2	11.4	11.6
女性役職者比率 (%)		8.3	8.3	7.9	9.3	8.6 ^{※2}	8.5
社員平均年齢 (歳)		39.3	39.0	31.3	38.2	46.3	39.0
社員平均勤続年数 (年)		12.6	12.2	7.4	8.7	9.3	8.5
社員離職率 (%)		6.3	8.7	8.2	7.7	7.6	13.2

※1 社会保険未加入の時短勤務対象者も含む

※2 前年度の数値に誤りがあったため、正しい数値を掲載しております。

2019年度の社員の年齢構成 (名)



資格取得支援制度の活用

働く人のキャリアアップを目的に資格取得支援制度を設けております

勤務する上で必要となる資格や技能講習や定期的な研修の受講はもちろんのこと、社員全員が安全かつ質の高い業務遂行ができるよう資格取得の支援を行っております。

資格取得実績

運行管理者	1名
労務管理2級	2名
労務管理3級	2名
2級ボイラー技師	1名

安心して働ける環境づくり

ワーク・ライフ・インテグレーション
ライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています

当社グループでは、性別や年齢などの属性にとらわれることなく、分け隔てのない採用、役員・管理職への登用、賃金体系とすることで、多様な人材が活躍できる環境づくりに努めております。

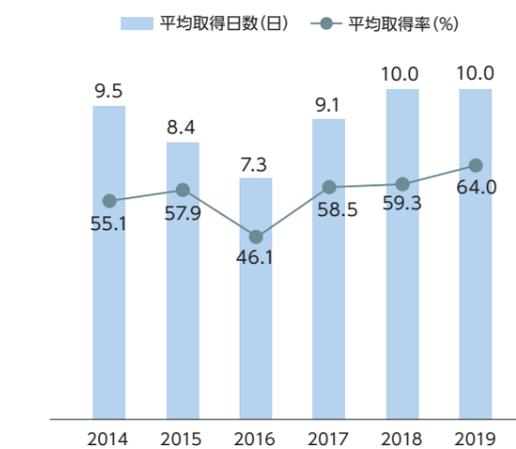
また、2018年度から働き方改革の一環として、勤怠管理システムを当社グループで導入しました。同システムの導入により残業時間や有給休暇などの効率的な管理が可能となっています。これにより、従業員本人が自分の勤務状況について確認ができるとともに、上司が部下の残業時間などをリアルタイムで確認・把握できるようになったことで、仕事の割り振りや配分を適宜調整することなどが可能となり、結果的に残業時間の低減につながっています。

また、従業員のワーク・ライフ・インテグレーション(仕事と生活の融合)の実現を重要テーマととらえ、出産や子育て、家族の看護や介護など、多様なライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています。具体的には、配偶者の出産時に3日間の特別休暇制度を設けているほか、グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックスおよび株式会社リリーフでは、病院の通院や付き添い、子供の行事への参加に利用しやすいよう、半日単位で有給休暇を取得できるようにしております。

主な支援制度

制度名	制度の内容	2019年度利用者
産前産後休業制度	出産前および出産後において一定の期間で休業が可能です	1名
育児休業制度	育児に専念するため、性別に関係なく、子が1歳に達するまで(最長1歳6か月まで)休業が可能です	1名
介護休業制度	介護を必要とする家族の介護のために一定の期間で休業が可能です	0名
短時間勤務制度	3歳に満たない子を養育する社員または家族を介護する社員は、所定労働時間の一部を短縮した勤務が可能です	0名
定年退職者再雇用制度(上記対象者人数)	60歳を超えても働く意欲があり、一定の基準を満たすすべての方を嘱託として再雇用します	1名(3名)
自己啓発支援制度	会社の認めるビジネススクールの受講や資格の取得に対し支援金を支給します	2名
慶弔見舞金制度	結婚祝金・出産祝金・傷病見舞金・災害見舞金・死亡弔慰金があります	20名

有給休暇取得状況



永年勤続者表彰 功績を称え、5名を表彰しました

勤続10年、20年、30年の節目にあたる社員の功績を称え、永年勤続者として表彰しています。

グループ6社永年勤続者 (2019年度)

勤続年数	対象人数
30年	3名
20年	5名
10年	0名
計	8名



アルバイトを含めたグループ全従業員 を対象に健康診断を行っています

産業医による健康診断を年に1回(深夜勤務のある従業員は半年に一回)、実施しているのに加えて、希望者を対象にインフルエンザの予防接種を行っています。健康診断の結果がC~E判定など正常参考値を超えた従業員については、産業医に相談し、就業上の措置や健康保持のためのアドバイスを受け、社員の健康管理に対する意識を高めるとともに、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮するなどの健康支援に努めています。

採用活動 33名が新たに仲間に加わりました

事業拡大にともなう人員増強として、2019年度は新卒採用者5名、中途採用者28名に入社していただきました。2020年度入社の新卒採用では1名が入社いたしました。また、アルバイトの活躍支援にも力を入れており、2019年度は14名のアルバイトを正社員に登用しました。



2020年度入社式

従業員の心とからだの健康管理 ストレスチェックを行っています

従業員50名以上の企業に年に一度実施することが義務付けられたストレスチェックを株式会社大栄と株式会社大協の従業員を対象に実施しました。産業医によるストレスチェックの実施に加え希望者には面談指導を行うほか、外部相談窓口も設けており、従業員が自分自身のストレス状況に気づききっかけづくりと、メンタルケアに寄り添うサポート体制を整えています。なお、集团的に分析した検査結果をもとに職場環境の改善にも努めています。

大栄ストレスチェック実施概要2019

実施期間：2019年9月10日~9月21日

対象者	受検者
正社員	56名
嘱託社員	3名
アルバイト	9名
合計	68名

大協ストレスチェック実施概要2019

実施期間：2019年10月1日~10月31日

対象者	受検者
正社員	32名
嘱託社員	1名
アルバイト 派遣アルバイト	11名
合計	44名

地域社会とともに



地域社会と地球のために貢献できることを追求する企業グループへ

【基本的な考え方】

グッドホールディングスグループは、事業を通じて社会の持続可能な発展に貢献するとの考え方にに基づき、地球環境としての課題解決への貢献、地域との共生、地域発展への貢献という観点から社会貢献活動を推進しています。

活動の目標と実績

活動のテーマ	2019年度目標	2019年度実績	2020年度目標
社会に安心、信頼される企業づくり			
リヴァックス	すべてのステークホルダーから安心、信頼されるための継続的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 環境学習の実施 施設見学の実施 メールマガジンの発行 セミナーの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 安心、信頼される廃棄物処理サービスの追求 世の中の食品ロスを減らす
リリーフ	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 社会活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども農業塾に参加 サステナビリティレポートの発行 生前整理セミナーの実施 合同慰霊祭の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 生前整理セミナーの実施 合同慰霊祭の開催
ダイキョウクリーン	地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 子ども農業塾に参加 サステナビリティレポートの発行 	社会貢献活動への参加
大栄	地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティレポートの発行 子ども農業塾に参加 	社会貢献活動への参加
大協	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 社会活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトボール大会に参加 自治会地域清掃の参加 サステナビリティレポートの発行 清掃活動の実施(週1回) 小学校へサツマイモ苗を寄贈 	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 社会貢献活動への参加
グッドホールディングス	地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 子ども農業塾に参加 チャイルド・ドリームへの寄付 サステナビリティレポートの発行 報告書賞への応募 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 慈善団体などへの寄付 サステナビリティレポートの発行 報告書賞への応募

子ども農業塾の開催 子どもたちの農業体験・学習をサポートしています

子ども農業塾とは、兵庫県阪神間の中でも豊かな自然が残っている甲山にて、子どもたちが土づくり(落ち葉堆肥づくりを通じて)や米づくりなどの体験を通して、自然のしくみに関する事、自分たちの生活のことについて学ぶ全5回の取り組みです。

食はもちろんのこと、その基になる農業について学び実際に体験する場を提供することも、社会的責任の一つであり、次世代の育成にもつながるとの思いからスポンサーとして主催、運営事務局であるNPO法人子ども環境活動支援協会様と協働で開催しています。市内の小学校4年生から6年生を対象に、弊社社員もボランティア

スタッフとして、子どもたちが農業の楽しさや作物を育てることの難しさ、自然循環の大切さを体験・学習できるようサポートしています。



2019年度子ども農業塾 1年間スケジュール

- 第1回 田植え・野菜植え付け・玉ねぎ収穫
- 第2回 夏野菜の収穫・田んぼの生き物観察
- 第3回 稲刈り・野菜植え付け・活動ポスター作り
- 第4回 さつまいも収穫・カレー作り
- 第5回 工場見学・稲わらリース作り・修了式



施設見学の受け入れ

さまざまなステークホルダーに公開し、廃棄物処理への理解を促進しています

株式会社リヴァックスでは、お取引のある排出事業者様をはじめ、学生や地域の方にも処理施設を公開しています。2019年度は、80社155名に加えて、関西大学第一中学校の生徒が見学に来られました。



地域清掃

地域の美化活動に貢献しています

毎年、各事業会社にて自治組織主催の地域清掃に参加しています。2019年度は、株式会社リヴァックスが鳴尾浜産業団地の自治組織主催の清掃活動に参加し、近隣のごみ拾いと草取り、周辺道路の清掃を行いました。今後も当活動を継続し、地域の美化活動に貢献していきます。



JICA研修の受け入れ

海外の廃棄物に関する課題解決を支援しています

独立行政法人国際協力機構 (JICA) 関西では、各国の廃棄物にかかわる自治体職員の行政能力向上を目的とした研修をされています。2019年度は6月に研修員の受け入



れに協力しました。今回は、株式会社大栄のごみ収集現場の視察や作業における危険源とそれらの対応策を紹介しました。

献血活動の普及・啓発

献血推進活動を応援しています

株式会社大栄では、社会貢献活動の一環として、日本赤十字社の献血推進活動を応援しています。2019年度は、全事業会社の従業員に参加を募り、3月に献血活動を行いました。献血受付者数は30名以上、献血者は26名の従業員が参加しました。献血人口の減少の深刻化が懸念される中、これからも献血活動のさらなる普及・啓発を支援する「献血サポーター」として積極的に協力していきます。



企業スポーツ活動

セーリングチームが各種大会に出場しています

当社グループでは、2013年にセーリングチームを創部しました。以降、数々の大会で好成績を収め、2019年10月



には日本代表として世界大会に出場するなど着実に実績を積み上げています。

2020年4月には新入社員1名がセーリングチームに加入しました。これからもさらにより成績をめざすべく、チーム一丸となって取り組みを続けてまいります。

2019年度成績・活動報告

7月 【関西実業団ヨット選手権】
チーム総合優勝

【社内試乗会開催】

9月 【第65回全日本実業団ヨット選手権(全国大会)】
チーム総合 4位

10月 【全日本スナイプ級ヨット選手権大会】
河野・田辺 17位
森谷・山本 20位

【スナイプ世界選手権】
森谷・山本 56位

お客様とのコミュニケーション

展示会への出展

多くのお客様とお会いできる機会をつくります

事業内容やCSRの取り組みを知っていただくだけでなく、多くの方々が抱えている現状のさまざまな課題をお聞きするため、グループ各社がさまざまな展示会に出展しております。

2019年度に出展した主な展示会

開催月	開催者	名称
8月	リリーフ	第5回エンディング産業展
11月	ダイキョククリーン	ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO 2019



展示会

社長ホットラインの設置

お客様からの大切なお声をダイレクトにお伝えいただけます

お客様のみならず、取引先様からのご意見や気づきを大切なお声として頂戴するために、グループ各社の社長へ直通するメールフォームをグッドホールディングスグループ全社のホームページで公開しております。寄せられたご意見は社長を含めて各部門にて共有し、今後のサービス向上に役立ててまいります。

合同慰霊祭の開催

故人様へ寄り添う心を忘れずに

株式会社リリーフでは、故人様への供養とご遺族の方々の気持ちに寄り添うため、年2回合同慰霊祭を行っています。遺品整理作業で故人様の生前の生活にかかわる中、慈しみの心で供養したいという思いから始まりましたが、今



はスタッフ自身も多くの故人様とかかわる日々大切な一つの区切りとしてご供養しております。

セミナーの開催

啓蒙活動に努めています

当社グループでは、お客様や消費者の方が環境や社会問題に対して、関心・知識をもつことが大切と考えております。そのため、各社で定期的に情報を発信するとともに、みなさまが相談できる場の提供を行っております。

2019年度に開催、登壇したセミナー

開催月	名称
2020年 2月	第14回廃棄物管理実務者セミナー

リリーフ

開催月	名称
2019年 5月	野村證券株式会社「ハッピーライフセミナー」
2019年 7月	はんしん高齢者くらしの相談室「人生を後悔しないための片付けの進め方」
2019年 9月	株式会社ジェイアール西日本伊勢丹 ジェイアール京都伊勢丹「整理収納アドバイス」
2019年10月	不動産業界の方向け!廃棄物処理法について
2019年12月	昭和興業株式会社「終活セミナー “専門家による生前整理について”」
2020年 2月	スタートピタットハウス株式会社「生前整理セミナー」
同	株式会社ニチリョク「終活セミナー “生前整理のいろは～健康維持のための収納術”」



セミナー

メディア出演・掲載実績

当社グループ各社の取り組みを各メディアにて取材、掲載いただいております

名称	取材、出版会社
CM放映「遺品整理のプロ」	各テレビ局
リサイクル通信2020年2月25日号	リサイクル通信
コープステーション2019年11月号	生活協同組合コープこうべ
循環とくらし 第8号	一般社団法人 廃棄物資源循環学会
朝山実氏著「お申いの現場人」(取材協力)	中央公論新社

大栄

名称	取材会社
ミント!	株式会社毎日放送 (MBSテレビ)

消費者課題への取り組み

ウェブカメラの設置

廃棄物処理状況をリアルタイムで公開しています

株式会社リヴァックスの施設内にウェブカメラを設置し、ホームページにてリアルタイムの映像を配信しています。遠隔地からでも廃棄物の搬入状況をご確認いただくことで、廃棄物処理の透明性を実現しています。



廃棄物の搬入・計量場所

契約外廃棄物の混入防止

コンテナに掲示板を設置し、混入防止に努めています

事前に契約したものと異なるものが混入していた場合、適正な処理が難しくなるだけでなく、事故や火災などの原因につながる可能性があります。株式会社リヴァックスでは正しい分別ができていない場合、すみやかにお客様に報告し、再発防止に努めるとともに、設置しているコンテナ箱に掲示板を設置するなど混入を未然に防ぐよう努めています。

事業継続計画(BCP)の取り組み

BCP災害対策本部を設置しています

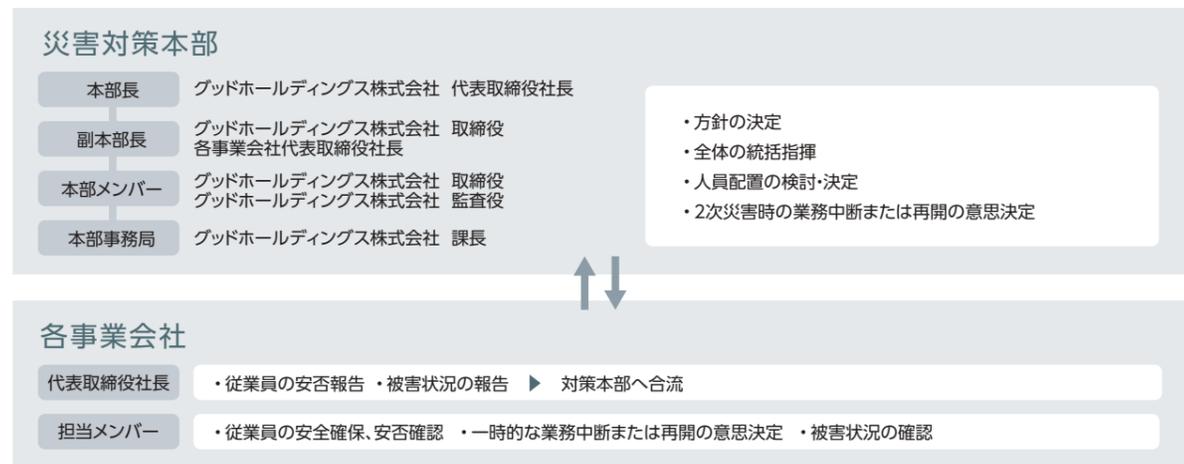
当社グループでは、大規模地震ならびに大型台風の発生を優先対応リスクの一つとして位置付け、被害未然防止のために従業員(とその家族を含む)の生命と安全を確保し、『地域社会の早期復旧』と『顧客の事業活動』に貢献すべく、可能な限りすみやかに事業を再開し、継続できるようBCP災害対策本部を設置しています。

災害発生時の初動対応

震災や台風などによる大規模災害が発生した際に、従業員が冷静な判断を行うことができるよう、初動対応や安否報告の手順などを記載した従業員携行カードを全員に配付しております。また、年に1回BCPの重要性を周知するための教育・訓練を実施し、BCPマニュアルの定期的な見直しを行っています。



組織体制と主な役割



グッドホールディングスグループは
チャイルド・ドリーム活動を支援しています。



Child's Dreamについて

1990年代後半に計画経済から市場経済の道を歩み始めたカンボジア、ベトナム、ラオスなどメコン川流域の国々。「東南アジア諸国連合(ASEAN)」のこれらの国々は、大きく変化する社会・経済環境の中で、確実に発展を遂げています。しかし、一方で地方との格差は急激に拡大しており、経済的不平等や内戦、政情不安などにより複雑な問題が絡み合い、いまだ深刻な人道危機が発生しています。

人権侵害により十分な教育機会が与えられていない子

供たちのために2003年より活動を始めた団体が「Child's Dream」です。子供たちの医療・教育環境を改善すべくコミュニティとの協働を通して目的を達成することを目標に日々活動に取り組んでいます。



グッドホールディングスグループが支援する理由

当社グループでは、「五方よし」を経営理念として売り手と買い手がともに満足し、また社会貢献もできる会社をめざしております。

また、社員および従業員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感すること、さらに次世代へ向けて持続可能な社会の構築を目標にさまざまな社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。社会貢献においては国内のみならず、世界の人々の豊かな社会の実現にも積極的に貢献していきたいという思いがあります。

株式会社リリーの「おかたづけサービス」で回収した不用品(家具、日用品など)を海外で再び活かす取り組みを2013年より始めました。これまで東南アジアを中心に活動してきましたが、都市部から離れた地域を訪問するにつれて、さまざまな社会問題や経済格差を目の当たりにしました。

そのような問題の将来的な解決のため教育機会の提供で子供たち・青少年の自立を支援する「Child's Dream」に共感し、グループ全体の売上の一部を寄付することとしました。

Child's Dreamの活動について

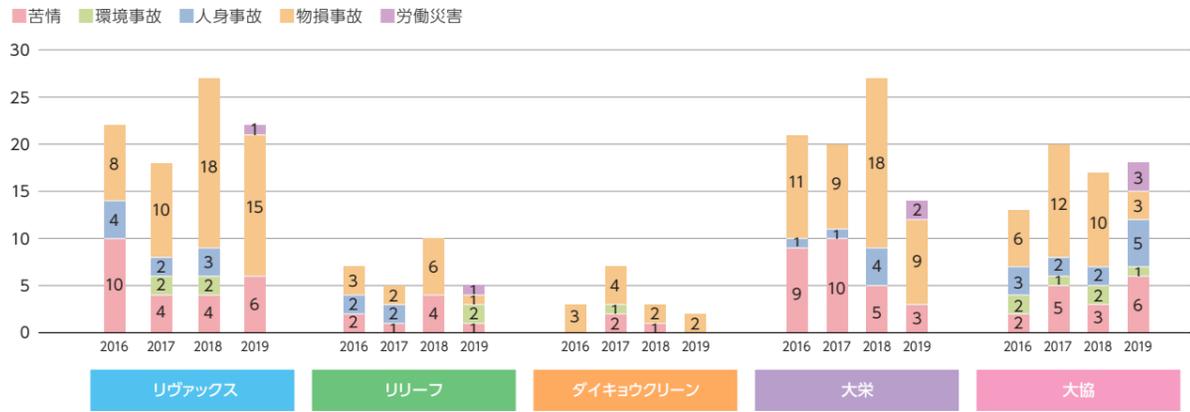
Child's Dreamの活動には「保健」「基礎教育」「高等教育」があります。中でも教育は、貧困撲滅、持続的経済成長への大きな原動力です。理解力や正しい判断力を鍛え、文化的平和や深い社会のつながりの基盤を構築することができ、所得獲得および質の高い雇用機会をうみだすことができます。

また、多くの子供たちが健康問題を理由に十分な教育を受けることができない現状にあるため、Child's Dreamでは救命治療や保護者への保健プログラムを提供し、より多くの子供が教育を受けられることができるようめざしています。



苦情・事故

2019年度の苦情・事故は62件(苦情17件、事故38件、労災7件)で、昨年度84件(苦情17件、事故67件)と比較し、減少いたしました。社会にとっても、働く従業員とその家族にとっても安全で安心な企業をめざし、再発防止に努めてまいります。



リヴァックス

件数	内容	原因	対策
6	臭気の苦情	シートシャッターの開閉時に風向きや風の強さによって臭いが流れている可能性	・当社施設(乾燥機製品室)に來訪いただき、臭気の種類を確認していただいた ・棟内のガラス窓に、外への吹き出し防止のために簡易的な板を取付けた
1	作業員の勤務態度が悪く、担当を変更してほしい	—	・お客様への事実確認とお詫び ・担当作業員への事情聴取と再教育 ・作業員の担当変更
1	道路に落ちていた社員のヘルメットが車にひっかかり、取外すのに時間を要した	—	・落下したヘルメットの当人へ事実確認と再教育 ・お客様へのお詫び ・社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
6	連休中の臭気がひどく、通常時と違う作業があったのかとの問い合わせ	・通常時と異なった作業をすることはなかったが、連休中は3カ月に1回程度、ある香辛料系廃棄物の作業を行っていた ・乾燥棟建屋全体の臭気を吸引している薬液洗浄塔からの薬品臭がすることがあるので、それらが原因と推測	—
1	分離作業終了後の返却パレットに廃液およびガラス片の付着があったと連絡をいただいた	・作業行程中に入るガラス破片と廃液がパレットに付着していた ・作業終了後にガラスが飛散する可能性のある場所付近にパレットを仮置きした ・作業時に使用する機器や機具からの液漏れの可能性	・パレットを直接土間に置かず、廃棄用パレットの上に置く ・仮置き場所を変更 ・機器または機具の変更 ・ほか作業時の廃液が流出しないようゴム板の仕切り板を新設
1	分離作業終了後の返却パレットに廃液およびガラス片の付着があったと連絡をいただいた(今期2回目)	—	1回目のご連絡後、すでに対策運用を行っており、さらなる対策はできないため、JPRパレットの付け替えや廃棄パレットなどでの排出をお客様へ依頼し、ご了解いただいた
7	フォークリフトを使用して、ドラム缶を車両の荷台に積み込み作業の際、バランスを崩してドラム缶を倒してしまい、左手首を痛めた	荷台にドラム缶を数本積載しており、空きスペースが限られていたことに加え、ドラム缶が予想以上の重さだったため、支えることができなかった	・ドラム缶に水を入れた状態で移動と積み込みの方法をレクチャーし、再教育した ・社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	右折で裏道に侵入する際、歩行者安全用ポールに車両右側後部が接触した	・渋滞を避けることを優先に考え、行動してしまった ・注意不足でポールを認識できていなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	大型車をバックで進入中に、車両助手席側後方のステップとウインカーが接触し、ライトカバーが破損した	積み込み作業をしやすいように車両を寄せ過ぎた	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	取引先の汚泥引取作業時、ホッパー下にコンテナをバックで移動させる際、車両左側に置いてあったロールペーパー台とバンパーが接触した	コンテナは避けて後進していたため、ロールペーパー台も避けることができたと過信してしまっていた	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
15	コンテナ設置作業時に車両右側のコンテナ後方と構内の鉄柱が接触した	慣れた現場での思い込み作業と、確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	コンテナ交換作業時、空コンテナ設置の際に車両左側に寄せ過ぎて、コンテナと既設のポールカバーが接触し破損した	慣れた現場での思い込み作業と、確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	工場での汚泥引取作業時、ホッパー下にコンテナを降ろす際、車両左側にコンテナが滑り、柱に傷をつけてしまった	常にギリギリの幅だったため注意しながら作業をしていたが、運転席から見えづらかったため、一旦降車して確認したところすでに接触してしまっていた	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	吸引作業中に4次キャッチャーのタンク内の水がなくなり、ブロワーが故障停止した	冷却水切れにもなうブロワー焼き付けにより故障	4次キャッチャーの冷却水は1時間ごとに記録用紙に記入管理を行うよう周知した

15	コンテナ置き場にバックで進入した際、車両左側の扉とコンテナが接触した	ほかのコンテナ車も駐車しており、接触しないよう注意していたが、車両右側後方ばかりに気を取られ左側の確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	コンビニ駐車場で停車中、別の車が車両右側後方に接触した	先方による不注意	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	吸引車をバックで進入する際に、工具箱が土手の中のコンクリート塊に接触した	砂状の土手の中のコンクリート塊に気づかなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	道路走行中、対向車を超えるため左側に寄せた際に、障害物と車両のメインミラーが接触し破損した	夜間の見通しが悪い状態で、対向車がくるかもしれないという予測運転が十分ではなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	リヴァックス場内にバックで進入しようとしたところ、車両左側に停車していた車両のミラーに接触した	ほか車両の通行を妨げないようできる限りスペースを開けようと、幅寄せしすぎってしまった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	フォークリフトの左ミラーと保管していた脱着式コンテナが接触し、ミラーが破損した	脱着式コンテナと壁の間に狭く、壁ばかりに気を取られ左側の確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	フォークリフトでの荷下ろし作業中にバックした際、後方車両の左後輪に接触した	フォークリフトに積荷を載せていたため、前方に注意が向いてしまい後方確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、構内ルールを見直した
1	コンテナ交換作業後、建屋を退出する際に、扉と助手席側のドアが接触した	狭いと認識していたが退出できると思い込み、誘導者の誘導と運転手の目視などが重なり注意散漫になってしまった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	契約で決まっていないルートを走行し、指摘を受けた	契約ルートについて失念してしまっていた	該当部署によるルートの再周知と、作業前に運転手へ配車担当から直接口頭にて確認を行う

リリーフ

件数	内容	原因	対策
1	お客様から作業後に、当社トラックが駐車していた箇所に、たばこの吸い殻が落ちていたと連絡を受けた	休憩時に車内で喫煙し、灰皿を使用していたが降車時に落下してしまっただけの可能性	社内へ内容を周知し、お客様宅の敷地外であっても作業員が滞在、使用した箇所すべての最終確認を行うよう指示した
2	分別作業時に近くにあった配管と木材をぶつけてしまい破損した	事故予測が十分ではなかった	作業前に事故が発生する可能性のある場所を確認し、安全確認を徹底するよう指示した
2	乗用車運転中、本線に合流する際に同車線を運転していた別車両と車線変更のタイミングが重なり接触してしまった	事故予測が十分ではなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	整理作業終了後、帰社した際にトラックの積み荷を降ろしていたところ、熱中症の症状が出た	体調管理を怠った	社内へ事故内容を周知し、少しでも体調に異変を感じたらすぐに休憩をとることと、こまめな水分補給をするよう指示した
1	家財の搬出中、養生不足により建物の床や壁に傷をつけてしまった	作業の安全確認を怠った	社内へ内容を周知し、養生を十分に行い、搬出時の安全確認を行うよう指導を行った

ダイキョウクリーン

件数	内容	原因	対策
2	運転中に車両内輪差で、施設のフェンスの角と車両が接触した	・車両の長さの把握不足 ・周囲の安全確認を怠った	社内へ事故内容を周知し内輪差やトラックの構造、運転時の注意点を再指導した
2	台車で機材を運搬中、壁にぶつかり壁の一部が破損した	機材運搬時、スロープで足を滑らせてしまった	・グリップ性の強い上履き靴へ変更 ・機材運搬時は周囲や床の状況に注意するよう指示した

大栄

件数	内容	原因	対策
3	狭い道で危ないので別の道を走行して欲しい	最短ルートだったので走行していた	別のルートを走行するように指示した
3	ごみの蓋を投げ捨てていた	—	バケツや蓋などは丁寧に扱うよう周知した
1	運転のマナーが悪いのできちんと教育して欲しい	—	全体ミーティングや安全教育で指導した
2	ごみ収集時、ごみ袋の中に鋭利なものが混入しており、回収の際に作業員が負傷した	重たいごみがあったため力強く持ち上げたところ負傷してしまっただけ	重たいごみがある場合は無理に1人で持ち上げず、助けを呼んで対応するよう再周知した
1	ごみ回収時、エレベーターに載せる際に勢いよく押し込んだため、小指を挟み骨折した	作業員2名ともが安全確認を怠った	無理な作業をしないように、周囲の安全確認をしっかりと行うよう指示した
1	粗大ごみ収集時、お客様宅でバックした際に欄に接触し破損した	コンテナのレバーを起こしたまま、ギリギリまでバックしようとした	コンテナのレバーが下がっているか確認し、車両はギリギリまで寄せないように再指導した
1	車両を発進させる際に、個人宅の駐車場のコンクリート部分と接触した	車間距離がギリギリだった	狭い道路の収集業務を大型車両から小型車両へ変更
1	踏切待機中に左へ幅寄せした際に、車両が電柱に接触してしまっただけ	電柱との距離をギリギリまで幅寄せしてしまっただけ	一時停車の際であってもギリギリの幅寄せはせずに十分な距離を保つよう再周知した
9	バックの際に、車両左後部がスロープに接触した	周囲の確認を怠った	バックする際は助手の誘導に従うよう指示した
1	クラッチペダルから足が滑り、慌ててブレーキを踏んだが車両が扉に接触した	・靴裏が滑らないよう処置をして運転するように指示した ・運転手が安全確認を怠った	・車間距離をしっかりとって停車するように再周知した
1	信号の無い交差点進入時に車と接触した	周囲の確認を怠った	見通しの悪い交差点では徐行するように指示をした
1	左折時に右前方にあるポールに接触した	周囲の確認を怠った	周囲の確認を徹底するよう指示した
1	サイドブレーキをきちんと引いていない状態で降車したため、車両が無人で進んでしまい前方の電柱に衝突した	運転手が安全確認を怠った	サイドブレーキを離しても動かないことを確認してから降車するよう指示した
1	コンテナの箱を引き上げる際、レールから脱輪し傾いたことでロッカーに接触した	運転手が安全確認を怠った	周囲の状況や安全確認をしてから作業するよう指示した

大 協			
件 数	内 容	原 因	対 策
苦情6件	ごみ回収時、バックで駐車したところ、ごみ箱に接触し変形させてしまった	慣れた作業で確認を怠った	左右後方確認の徹底とゆとりをもった作業をするよう再周知
	ごみ回収時、誤ってごみのふたも回収処分してしまった	積み込み時に気づかずそのまま積み込んでしまった	講習を行い収集前後の異変などがないか確認を行うことを社内で周知した
	ごみ回収時、誤って取引先従業員の私物も回収処分してしまった	確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、再発防止のための講習を行った
	発泡スチロールが回収されず、ごみ置き場に置かれたままにされたご連絡をいただいた	トラックの容量が限界で、積みきれないものを置いて行ってしまった	物量過多など突発的に起こる時は無線などで別の車両に回収を依頼し、慢性的にそのような状態があればコースの見直しを行い、安定した回収をするよう周知した
	誤って別顧客の回収を行ってしまった	慣れていない作業員が回収に行く際に、説明を口頭で済ませてしまったことによるコミュニケーション不足	・回収場所を記載した地図にごみ置き場の位置や必要事項を追加したものを作成し、車両に常備するように指示した ・不明な場合は上段に連絡し指示を仰ぐよう再周知した
	ごみ回収時、隣家にプラスチックの破片が飛散した	周囲の確認を怠った	・飛散しそうなものを回収する際は必ずフタを閉めるよう指導した ・周りに十分に注意し慎重に作業をするよう再周知した
環境事故1件	ごみ回収時、積荷より出火した	スプレー缶またはカセットボンベなどが圧縮によるガス漏れからの引火	・引火性の高いガス缶がないか確認を行い、発見後は別に収集しクリーンセンターで排出するよう指示した ・火災発生時は手順書に従い迅速に通報、連絡することを社内で再周知を行った
	交差点で自社車両とバイクが接触した	交差点内で左右の確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、交差点では標識の有無にかかわらず一時停止を行って安全確認してから通過することを周知した
人身事故5件	ごみ回収時、バックした際にバイクと接触した	・助手の誘導なしにバックしてしまった ・車両後方の確認を怠った	・助手の誘導なしにバックを行わないよう指示 ・助手の誘導がある場合でもバックミラーで後方全体の確認を徹底することを再周知した
	建屋から車道に出る際、車両左側から走行してきた自転車と接触した	自転車、歩行者は来ないだろうと過信し、確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、左右の安全確認を徹底することを再周知した
	車両をバックさせた際に後方車両と接触した	車両後方の確認を怠った	安全確認を徹底するよう再周知し、アクションを起こす際は必ず一呼吸おいて行動することを指導した
	車両のドアを開けた際に後方からきた自転車と接触した	車両後方の確認を怠った	運転手および助手は乗車時だけでなく、常に車両の前後左右の確認を徹底するよう再周知した
労働災害3件	ごみ回収時、熱中症で気分が悪くなり足元がふらついた	当日朝から微熱があったが申告せずに作業を行った	・水分、塩分の補給をしっかり行うよう指示した ・朝礼点呼時に体調不良の場合は、報告するよう指示した
	ごみ回収時、ごみ袋の中に入っていたボールペンが手に刺さった	ごみ袋が白色で中身が見えなかった	クリーンセンターへ鋭利な物を入れる際は注意していただくよう市民への周知を依頼した
	廃棄自転車の回収時、突起物が左足に接触し負傷した	後方に待機車両がいたため急いで作業を行った	自転車や大きなものは慎重に作業を行うよう再周知した
物損事故3件	車両を左折する際に壁と接触し破損した	ミラーでの確認を怠った	・狭いところには車両で無理に入らず、横に駐車して回収するように指導した ・安全確認はサイドミラー、バックミラー、目視の3点確認を徹底するよう再周知した
	バックで進入する際に車両前方左側が植え込みに接触した	無理にバックで進入しようとした	安全教育の再指導を行った
	車両をバックさせた際に、後方の小屋に接触し破損した	・収集作業の遅れから焦った作業を行い、安全確認を怠った ・助手も誘導作業を怠った	・常に心にゆとりのある運転、作業をするよう再指導した ・助手の誘導でバックを開始することの徹底を再周知した

グッドホールディングス

件 数	内 容	原 因	対 策
情報セキュリティ事故 (限定的、軽微) 1件	スマートフォンの紛失 (※発見済み、情報の漏えいは確認されておりません。)	別のことに気を取られ、落としたことに気づかなかった	事故内容を周知し、改めて落下防止策の徹底と不要な持ち運びはしないよう注意喚起した
情報システム障害 (深刻、重度) 1件	当日16時頃～21時頃まで、ファイルサーバにて格納されているファイルの閲覧/編集/保存ができない新規ファイルの保存ができない事象が発生した	サービス提供元にて管理している光ファイバーケーブルが物理的に破損し、ユーザーの利用を維持するのに必要なレベルを下回った	(サービス提供元にて)早期回復を目指すため、障害発生アラートの強化、影響を受けたユーザに対して再度別ルートでのネットワーク接続を行う手順を強化する(当社内)自社内独自でバックアップを取得する仕組みを構築する
情報システム障害 (限定的、軽微) 1件	メール作成画面にて【宛先】ボタンを押してもアドレス帳が真っ白になり表示されない事象が発生した	サービス提供元の連絡帳の呼び出し要求などに関するメモリーが不足する事象が発生し、エラーとなった	(サービス提供元にて)サーバーの増設及び、監視の強化を実施

ISO26000対照表

	中核主題および課題	対応ページ		中核主題および課題	対応ページ
6.2	組織統治	P01～06	6.6.5	公正な競争	P32～36
6.3	人権		6.6.6	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	P05～06、32～36
6.3.3	デューディリジェンス	P05、41、43～45	6.6.7	財産権の尊重	—
6.3.4	人権に関する危機的状況	P43～45	6.7	消費者課題	
6.3.5	加担の回避	P33	6.7.3	公正なマーケティング、事実即した偏りのない情報および公正な契約慣行	P46、49
6.3.6	苦情解決	P33、34、45、48	6.7.4	消費者の安全衛生の保護	P15～36、46～50
6.3.7	差別および社会的弱者	P33、44、49	6.7.5	持続可能な消費	P05～06、15～18、37～40
6.3.8	市民のおよび政治的権利	P43	6.7.6	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情および紛争の解決	P15～30、46～53
6.3.9	経済的、社会的および文化的権利	P50	6.7.7	消費者データ保護およびプライバシー	P32～36
6.3.10	労働における基本的原則および権利	P41～45	6.7.8	必要不可欠なサービスへのアクセス	P27～30
6.4	労働慣行		6.7.9	教育および意識向上	P33、37～46
6.4.3	雇用および雇用関係	P41～45	6.8	コミュニティへの参画およびコミュニティへの発展	
6.4.4	労働条件および社会的保護	P41～45	6.8.3	コミュニティへの参画	P01～06、14、30、46～50
6.4.5	社会対話	P46～50	6.8.4	教育および文化	P33、41～45
6.4.6	労働における安全衛生	P41～45	6.8.5	雇用創出および技能開発	P29、44
6.4.7	職場における人材育成および訓練	P41～45	6.8.6	技術の開発および技術へのアクセス	P01～04、15～18
6.5	環境		6.8.7	富および所得の創出	P29、41～45
6.5.3	汚染の予防	P18～20、37～40	6.8.8	健康	P19～20、37～45
6.5.4	持続可能な資源の利用	P18～20、37～40	6.8.9	社会的投資	P46～50
6.5.5	気候変動の緩和および気候変動への適応	P37～40			
6.5.6	環境保護、生物多様性、および自然生息地の回復	—			
6.6	公正な事業慣行				
6.6.3	汚職防止	P32～36			
6.6.4	責任ある政治的関与	P32～36			

- 編 集 方 針
- 「サステナビリティレポート」は、お客様をはじめ、地域住民の方々や従業員とその家族、ステークホルダーのみなさまに、グッドホールディングスグループがめざす姿や持続的な成長、企業価値の向上への取り組みについて、より一層ご理解いただけるよう、毎年発行しております。
 - 本年は創業60周年を迎え、「創業者精神の継承と挑戦」をテーマに、創業者の想いを振り返るとともに、その想いを引き継ぎ、いかに今後の挑戦や発展につなげていくかについて理解していただけるよう、レポートを構成しています。また、次世代を担う若者たちにも当社グループの事業や社会貢献の取り組みを知っていただきたく、「はたらく人」に焦点を当てて、あらゆる視点で分かりやすく伝えるようにとの想いで制作いたしました。
 - 本レポートでは、ISO26000「社会的責任に関する手引き」の中核主題である7項目をもとに、「コーポレート・ガバナンス(組織統治、公正な事業慣行)」、「環境における取り組み(環境)」、「従業員とともに(人権、労働慣行)」、「地域社会とともに(消費者課題、コミュニティへの参画およびコミュニティの発展)」のとおり、編集しております。

- 対 象 組 織
- グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大栄、株式会社大協(報告書は各社のホームページでも公開しており、英語版についてはホームページのみの掲載としています)

- 対 象 期 間
- 2019年度(2019年4月～2020年3月)※活動内容の一部、2020年度を含む。

- 発 行 月
- 2020年10月(次回:2021年9月予定)

- 対 象 分 野
- 事業活動に関する環境的側面、社会的側面、経済的側面

- 参 考 ガ イ ド ラ イ ン
- 社会的責任に関する国際規格「ISO26000」／ GRIガイドライン第4版／環境省「環境報告ガイドライン」



捉える、応える、超えていく

グッドホールディングス株式会社

株式会社リヴァックス

株式会社リリーフ

株式会社ダイキョウクリーン

株式会社大栄

株式会社大協

お問い合わせ先

グッドホールディングス株式会社 経営サポート部

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町14-5 太陽生命西宮ビル3階

TEL : 0798-34-3425 E-mail : csr@goodhd.co.jp

